



2026年度

シラバス

保育・幼児教育学科

大阪健康福祉短期大学



## 《シラバスの見方》

★シラバスとは、講義の内容や予定、到達目標や評価の方法などの授業計画がまとめられた資料のことです。今年度2年生を対象に開講される科目を目次にそって記載しています。シラバスの各項目の見方は、下記を参照してください。

### (1) 講義等情報

#### ①授業の種類

主にどのような形態で授業が展開されるのかを示します。

講義…教員が説明したり、学生と対話したりすることを通して学習内容を伝える方法

演習…模擬的な対象を設定して、体験的に学習内容を伝える方法

#### ②授業担当者

科目によっては複数の教員が担当する授業があります。オムニバス形式の授業では、複数の教員が単独で登壇して授業を展開します。

#### ③配当

開講される時期を表しています。

#### ④必修・選択

卒業や資格・免許を取得するにあたり、履修が必要かどうかを示しています。

卒業必修…卒業するために必ず履修しなければならない科目

資格必修…保育士資格を取得するために必ず履修しなければならない科目

幼免必修…幼稚園教諭二種免許状を取得するために必ず履修しなければならない科目

選択必修…保育士資格を取得するために指定した科目

### (2) 授業の目的・ねらい

当該授業の学習を通して学生に期待する学習内容を示しています。

### (3) 授業修了時の達成課題（到達目標）

授業終了時まで学生に出来るようになってほしい事柄を示しています。

### (4) 準備学習の内容

各回の授業を行うにあたり、授業計画をみて事前に学んでおいた方がよい知識・情報が必要と思われるものについて記載しています。

## (5) 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

授業の目的・ねらい、到達目標に応じて具体的なテーマ、内容を示しています。授業内での発表や課題解決型学習、グループワーク等の授業の進め方や方法を記載しています。

## (6) 試験

所定の回数の授業を実施した後に行われる試験について示しています。「なし」や空欄の場合、授業内評価によって評価が行われることを示しています。

## (7) 使用テキスト

授業で実際に使用するテキストを明記しています。毎回の授業で必ず準備する必要があります。

## (8) 参考文献

必ずしも授業内で使用しませんが、授業内容に関連して読んでおいたほうがよい文献を提示しています。

## (9) 試験の方法と学習成果の評価基準

### ①平常試験

#### ア、到達度の確認

平常授業時における提出物や講義のまとめおよび筆記またはレポートにより学力確認を行います。

#### イ、実技・作品発表等

平常授業時に講義のまとめおよび実技・作品の発表を行います。

### ②試験

#### ア、筆記試験

授業終了後に所定の期日に筆記による試験で評価を行います。

#### イ、レポート

授業終了後に期日を設け、指定された場所へ提出されたレポートによって評価を行います。

#### ウ、実技試験

授業終了後に所定の期日に実技による試験で評価を行います。

#### エ、面接試験

授業終了後に所定の期日に口頭による面接試験で評価を行います。

## (10) フィードバックの方法

試験やレポート等の課題に対するフィードバックの方法を示しています。

## 保育・幼児教育学科における主要授業科目

「主要授業科目」とは、学生に学位を取得させるに当たり、当該学位のレベルと分野に応じて達成すべき能力を育成するために必要な科目群であり、各授業科目のうちいずれが主要授業科目に当たるかは、当該授業科目と3つのポリシーとの関係等を踏まえ、各大学等で判断するものです。

保育・幼児教育学科では下記の科目を「主要授業科目」として定めています。

教育の特徴	主要授業科目
1. 科学的な根拠に基づく保育・幼児教育の力	保育ゼミナールⅠ 保育ゼミナールⅡ 保育ゼミナールⅢ
4. ゼミ形式で行う個別的な学習サポート	保育ゼミナールⅣ 保育・教職実践演習
2. 豊かな人間性と生活力	地域実践演習Ⅰ 地域実践演習Ⅱ 保育実習指導Ⅰa 保育実習Ⅰa 保育実習指導Ⅰb 保育実習Ⅰb 教育実習指導Ⅰ 教育実習指導Ⅱ 幼稚園実習 保育実習指導Ⅱ 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅲ 保育実習Ⅲ
3. 豊かな感性と児童文化を創造・発信する力	表現技術Ⅰ 表現技術Ⅱ 表現技術Ⅲ 総合表現

# 目 次

## < 2 年次 >

### 【教養科目群】

#### 卒業必修科目

情報リテラシー演習	1
キャリアアップ教育Ⅲ	3
キャリアアップ教育Ⅳ	5
国語	6

### 【専門基礎科目群】

#### 幼稚園教諭免許必修科目／保育士資格必修科目

幼児理解	8
保育内容（健康）	10
保育内容（人間関係）	12
保育内容（環境）	14

#### 幼稚園教諭免許必修科目／保育士資格選択必修科目

教育制度論	16
保育・教育相談演習	17
教育方法論	19

#### 保育士資格必修科目

子ども家庭支援論	21
子どもの健康と安全	23
社会的養護Ⅱ	24
子育て支援演習	26

### 【専門応用科目群】

#### 卒業必修科目

表現技術Ⅲ	27
-------	----

#### 幼稚園教諭免許必修科目

総合表現	29
------	----

### 保育士資格選択必修科目

子どもの造形表現Ⅰ	31
子どもの造形表現Ⅱ	32
子どもの音楽表現Ⅰ	33
子どもの音楽表現Ⅱ	35
子どもの言語表現	37
地域課題演習	39
社会的養護Ⅲ	41
障がいのある人の発達保障	42
保育臨床相談	43
福祉・保育の思想	45

### 【専門実践科目群】

#### 幼稚園教諭免許必修科目

教育実習指導Ⅱ	46
幼稚園実習	48

#### 保育士資格選択必修科目

保育実習指導Ⅱ	50
保育実習Ⅱ	52
保育実習指導Ⅲ	54
保育実習Ⅲ	56

### 【専門研究目群】

#### 卒業必修科目

保育ゼミナールⅢ	58
保育ゼミナールⅣ	68

#### 幼稚園教諭免許必修科目／保育士資格必修科目

保育・教職実践演習	78
-----------	----

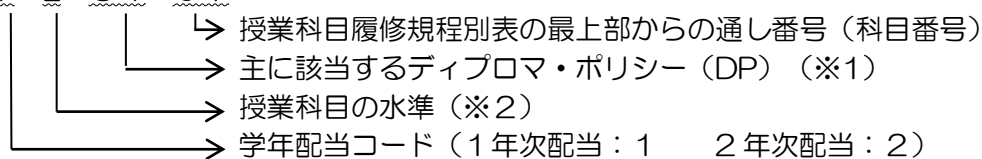
## 科目ナンバリング

当該授業科目の教育課程内の位置づけを表す番号です。授業科目に番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。

シラバスの右下に各科目のナンバリングを示しています。

(例)

日本国憲法：1-L-34-01



(※1) ディプロマ・ポリシー

コード	該当 DP
10	DP1
12	DP1+DP2
20	DP2
30	DP3
34	DP3+DP4
40	DP4
50	DP5
60	全 DP

(※2) 授業科目の水準

コード	水準	内容
L	教養	教養科目
B	基礎レベル	専門科目 知識・理解
A	応用レベル	専門科目 方法・技能
P	実践レベル	専門科目 実習・実技
R	研究	研究科目

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 情報リテラシー演習		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 野田 哲夫	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 情報教育入門 (1年生講義) で学んだコンピュータとインターネットの理解、ソフトウェア (Word, Excel, PowerPoint 等) の基礎知識を基に、保育・教育の現場に出た際に使える技術・データ分析の方法等の習得し、簡単な総計処理とレポート作成、発表資料作成ができるようになります。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 表計算ソフト (Microsoft Excel) による応用操作を中心に、データベースの操作、簡単な統計分析 (基本統計量、相関、回帰分析、仮設と検定) を学び、プレゼンテーションソフト (Microsoft PowerPoint) を応用して統計分析結果の発表方法を教えます。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標) ] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワードプロソフト (Microsoft Word) を使ったレポート、報告書の作成ができます。(復習)</li> <li>・ 表計算ソフト (Microsoft Excel) を使ったデータベースの操作ができます。</li> <li>・ 表計算ソフト (Microsoft Excel) を使った簡単な統計分析ができます。</li> <li>・ ワードプロと表計算ソフトを活用してプレゼンテーションソフト (Microsoft PowerPoint) を使った発表ができます。</li> </ul> 以上を総合的に活用してレポートや論文やプレゼン資料作成し、報告ができることを目標とします。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ワードプロソフトの応用操作 Microsoft Word を使った応用操作について1年生 (情報教育入門 (機器操作を含む) で学んだ内容を基に復習・理解し、具体的なデータを使って処理方法について学びます。			Microsoft Word の復習 (文書作成、編集) をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】1時間		
2) 表計算ソフトの応用操作 Microsoft Excel を使った応用操作について1年生 (情報教育入門 (機器操作を含む) で学んだ内容を基に復習・理解し、具体的なデータを使って処理方法について学びます。			Microsoft Excel の復習 (式の計算、関数、グラフの作成) をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】1時間		
3) 表計算ソフトとデータベース Microsoft Excel 使ってデータベースとデータベースを使って検索・抽出、並べ替え等の操作について理解し、具体的なデータを使って処理方法について学びます。			テキストのデータを作成してデータベース操作の準備をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】1時間		
4) 表計算ソフトと統計分析 - 1 一つの変数を使った基本統計量 (平均・最大値・最小値・中央値・最頻値・分散・標準偏差等) についてその意味と算出方法を理解し、Microsoft Excel で具体的なデータを使って処理方法について学びます。			テキストのデータを作成して基本統計量作成の準備をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】1時間		
5) 表計算ソフトと統計分析 - 2 二つの変数の間の散布図・相関について学び、相関分析についてその意味 (相関の正負・強弱が意味するところ) と算出方法を理解し、Microsoft Excel で具体的なデータを使って処理方法について学びます。			テキストのデータを作成して散布図の作成、相関分析の準備をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】1時間		
6) 表計算ソフトと統計分析 - 3 二変数の回帰分析についてその意味 (目的変数と説明変数を使って原因を推計する) 意味と算出方法を理解し、Microsoft Excel で具体的なデータを使って処理方法について学ぶ。			相関分析の復習を行い、回帰分析の準備をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】1時間		
7) 表計算ソフトと統計分析 - 4 母集団から抽出したデータ (標本) を使って母集団の統計量を推定、検定する方法について学び、Microsoft Excel のデータ分析機能を使って推定と検定を行います。			回帰分析の復習を行い、推定、検定の準備をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】1時間		
8) プレゼンテーションソフトの基本操作 Word, Excel のデータも活用した Microsoft PowerPoint の応用操作を1年生 (情報教育入門 (機器操作を含む) で学んだ内容を基に復習理解し、表計算ソフトで処理したデータを使ってプレゼン資料の作成を行います。			統計分析のデータを整理して、プレゼンテーション用のデータの準備をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】1時間		

[使用テキスト]石村貞夫・劉晨・石村友二郎 著 『Excel でやさしく学ぶ統計解析—入力の基礎からレポート作成』、東京図書 ISBN978-4489024368	
[参考文献] 『情報リテラシー教科書 Windows 10/Office 2021 対応版』 ISBN-13 : 978-4274229657 ※1年次に購入済み ※『情報リテラシー教科書 Windows 10/Office 2024 対応版』 ISBN-13 : 978-4-274-23437-8 (図書館にあります)	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
① 到達度の確認 ( 50%)	授業毎に課した課題を提出してもらいます。(Google Formを活用)。
②実技・作品発表 ( %)	
【定期試験】	
① 筆記試験 ( 50%)	Microsoft Excel を活用してデータベースの操作、簡単な統計分析(基本統計量、相関、回帰分析、仮設と検定)ができることを確認します。
②レポ ー ト ( %)	
③実 技 試 験 ( %)	
④面 接 試 験 ( %)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 授業毎に課題を課し、コメントを付けて返却します(Google Formを活用)。 筆記試験については、答案を返却し間違えた箇所を指摘、正答を試験期間終了後に開示します。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-L-50-03

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) キャリアアップ教育Ⅲ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤 友彦	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	3セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 社会に貢献できる人となるために、社会人として必要な知識、教養、コミュニケーション力、人間性を身につけることを目的とする。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] キャリア教育の第3段階と位置づけ、履歴書作成、小論文作成、面接練習を中心に就職試験対策を行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ①就職あるいは進学先を踏まえた履歴書、お礼状を作成し、小論文を記述できる。 ②面接練習に適切な態度で臨み、質問に回答できる。 ③キャリアプランを考えることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション: 授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。 進路就職ガイダンス: 進路就職活動の流れを把握する。進路就職関連の諸届票に記入・記述する。					
2) 履歴書①: 本学科書式の履歴書を作成する。			1年次に作成した履歴書を参考に、記入・記述内容を考えておく。(1時間)		
3) 小論文: 提示されたテーマをもとに小論文を記述する。			事前に提示されたテーマをもとに回答内容を考えておく。(1時間)		
4) 面接練習①〈グループワーク〉: グループで面接練習を行う。面接練習後に振り返りをしてワークシートに記述する。			自己PR、志望動機に加え、学生時代に学業以外で学んだこと、入職後の働き方、ストレスマネジメントについての回答を考えておく。(1時間)		
5) 面接練習②〈グループワーク〉: グループで面接練習を行う。面接練習後に振り返りをしてワークシートに記述する。			第4回のフィードバックを踏まえ、回答内容を考えておく。(1時間)		
6) 就職情報の収集①〈ゲストスピーカー〉: 保育・幼児教育学科卒業生の話を聴き、進路選択の端緒とする。					
7) 履歴書②: 履歴書の修正をする。 お礼状: 就職内定後のお礼状を作成する。			第2回の内容を踏まえ、記入・記述内容を考えておく。(1時間)		
8) 就職情報の収集: 学内就職ガイダンスに参加し、事業所担当者の話を聴き、事業所の特徴等をワークシートにまとめる。(2026年7月下旬予定)			参加希望事業所を決め、事前に希望届を出す。(1時間)		
[使用テキスト] なし					
[参考文献] なし					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (80%)	履歴書、小論文、ワークシート、お礼状の提出、記述、内容で評価する。				
②実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (20%)	記述、内容で評価する。				
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法] 履歴書、小論文、ワークシートにはコメントを付して返却する。					
[備考] ガイダンス担当者の都合で授業の順番は変更になることがある。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-L-45-12

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) キャリアアップ教育IV		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤 友彦	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	4セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 社会に貢献できる人となるために、社会人として必要な知識、教養、コミュニケーション力、人間性を身につけることを目的とする。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] キャリア教育の第4段階と位置づけ、入職後の諸課題への対応を学び、ライフステージを踏まえた卒業後のキャリアプランニングを行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ①入職後の諸課題を想定し、対応策を考え、まとめることができる。 ②キャリアプランを考えることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション: 授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。 進路就職ガイダンス①: 進路就職活動の流れを再確認する。					
2) ポジティブメンタルヘルス①〈ゲストスピーカー〉: 外部講師(臨床心理士)の講話を聴き、メンタルヘルスの理解を深める。					
3) ポジティブメンタルヘルス②: ワークエンゲージメントを理解し、ワークシートにまとめる。					
4) ポジティブメンタルヘルス③: ジョブクラフティングを理解し、ワークシートにまとめる。					
5) ポジティブメンタルヘルス④〈グループ〉: グループワークを通して自己効力感やポジティブ感情などを高める。					
6) キャリアチェンジ〈グループ〉: 入職後のトラブルを把握し、対応策を検討する。					
7) 進路就職セミナー〈ゲストスピーカー〉: 外部講師(保育施設勤務経験者)の講話を聴き、入職後の働き方について理解を深める。					
8) 進路就職ガイダンス②: 入職までの流れを理解する。卒業後のキャリアプランを考え、ワークシートにまとめる。					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] なし					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( 80%)	ワークシート等の提出、記述、内容で評価する。				
②実技・作品発表 ( %)					
【定期試験】					
①筆記試験 ( %)					
②レポート ( 20%)	記述、内容で評価する。				
③実技試験 ( %)					
④面接試験 ( %)					
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法]ワークシートにコメントを付して返却する。					
[備考] ゲストスピーカーの都合で授業の順番は変更になることがある。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-L-45-13

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 国語		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 橋本 祐治	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	元小学校教員の経験を活かし、子どもが言葉の力を獲得する段階性と連続性等について講義する。				
[授業の目的・ねらい] 専門的知識と技能に基づき、子どもの発達を保障し豊かな言葉の力をつけるために、幼児期から学齢期初期の言葉の発達や指導内容について理解する。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」を踏まえ、国語教育の意義を理解し、小学校入門期の国語科教育を概観する。それによって、子どもが言葉の力を獲得していく段階性と連続性、さらには言語活動をとおして「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力」を育成することについて理解する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・生涯を通じた国語教育の意義を理解する。 ・小学校入門期 (1年上巻) の国語科教科書を読み、就学後の子どもたちが行う言語活動をとおして「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成することについて理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 授業科目全体の概要を知り、見通しを持つ。 ・「シラバス」についての質問や学修したいことを共有しながら、授業科目全体の見通しをもつ。 ・人間が成長するための言葉の学びについて理解する。			・「シラバス」を読む。(30分)		
2) 国語教育の意義 その1 ・人間の言葉の特徴について理解する。 ・国語教育と国語科教育との関係について理解する。					
3) 国語教育の意義 その2 ・保育 (幼児教育) における領域「言葉」のねらいを踏まえて、国語科教育の目標及び内容を知る。			・「言葉の獲得に関する領域『言葉』」を読む。(1時間)		
4) 小学校入門期の言葉の学習 1 ・小学校1年上巻の教科書を使って、「言葉の働きや使い方に関する事項」等について調べることをとおして、「知識及び技能」「学びに向かう力、人間性等」に関する教科目標を理解する。			・『あたらしい 国語 一上』を読む。(30分)		
5) 小学校入門期の言葉の学習 2 ・小学校1年上巻の教科書を使って、「A 話すこと・聞くこと」について調べることをとおして、「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に関する教科目標を理解する。			・『あたらしい 国語 一上』を読む。(30分)		
6) 小学校入門期の言葉の学習 2 ・小学校1年上巻の教科書を使って、「B 書くこと」について調べることをとおして、「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に関する教科目標を理解する。			・『あたらしい 国語 一上』を読む。(30分)		
7) 小学校入門期の言葉の学習 2 ・小学校1年上巻の教科書を使って、「C 読むこと」について調べることをとおして、「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に関する教科目標を理解する。			・『あたらしい 国語 一上』を読む。(30分)		
8) まとめ ・子どもが言葉の力を獲得していく段階性と連続性、その重要性を理解する。 ・生涯を通じた国語教育の担い手としての意識を持つ。			・第1回から第7回授業資料及び「学修のまとめ」を概観し、子どもが言葉の力を獲得していく段階性と連続性、その重要性について考える。(1時間)		
[使用テキスト] ・文部科学省、『幼稚園教育要領解説』,2018,フレーベル館 ・厚生労働省、『保育所保育指針解説』,2018,フレーベル館					

<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋田喜代美他,『あたらしい 国語 一上』,2024,東京書籍 令和5年検定版</li> </ul>	
[参考文献]	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国大学国語教育学会編,『新たな時代の学びを創る 小学校国語科教育研究』,2019,東洋館出版社</li> <li>・文部科学省,『小学校学習指導要領解説 国語編』,2018,東洋館出版社</li> </ul>	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認 ( 70%)	・授業内容を自らの視点でまとめ、考えを述べる。(各回「学修のまとめ」提出)
②実技・作品発表 ( %)	
【定期試験】	
①筆記試験 ( %)	
②レポート ( 30%)	示された課題について、2,000字程度のレポートを作成する。
③実技試験 ( %)	
④面接試験 ( %)	
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない。
[フィードバックの方法]	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出された「学修のまとめ」への評価言と評価点を毎回返却する。</li> <li>・レポート試験について、評価基準に基づいた個別評価票を提出レポートとともに返却する。</li> </ul>	
[備考]	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各回の「学修のまとめ」は Google CLASSROOM で提出する。シートには、事前学修実施の有無も記入する。</li> </ul>	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められている。

2-L-10-14

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 幼児理解		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 平野 美緒	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	臨床心理士として保育・教育・医療などの場でカウンセリングや発達相談の心理的援助に従事した経験をもとに講義する。				
[授業の目的・ねらい] 生活や遊びの実態に即した子どもの発達や学び、またその過程で生じるつまずきやその要因を把握するための方法について理解し、具体的な対応・支援を説明できるようになる。					主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] 保育現場の具体的な事例に基づき、子どもの発達の特徴を理解し、子ども理解の視点と方法をテーマに取り上げる。また、家庭と連携した幼児理解を行うため、保護者が抱えている子どもの育ちに対する思いを理解し、それを共有しあう方法について演習を行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども理解についての知識や基礎的態度を理解し、実践できる。</li> <li>子ども理解の方法を具体的に理解でき、実践できる。</li> <li>子ども理解に基づく保育者の援助や態度の基本を理解し、説明できる。</li> <li>子どもを取り巻く環境について捉え、保護者への基礎的な対応方法について理解し、説明できる。</li> </ul>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 保育における子ども理解の意義					
2) 子ども理解を深めるための保育者の基礎的態度や姿勢					
3) 子ども理解における発達の観点					
4) 子ども理解の視点① 個と集団の関係の理解について、事例をもとにグループディカッションを行う。			第1～4講の講義で扱ったテーマについて小レポートの作成。(30分程度)		
5) 子ども理解の視点② 仲間関係と葛藤について、事例をもとにグループディスカッションを行う。					
6) 子ども理解の方法① 観察・対話・検査					
7) 子ども理解の方法② 保育カンファレンス					
8) 保護者理解と協働 ・これまでの学習のまとめと振り返り ・到達度確認テストの実施			第5～7講の講義で扱ったテーマについて小レポートの作成。(30分程度)		
[使用テキスト] 公益財団法人児童育成協会＝監修／清水益治、森 俊之＝編集 『新・基本保育シリーズ10 子どもの理解と援助』中央法規出版					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (100%)					
②実技・作品発表 ( ) %					
【定期試験】					
①筆記試験 ( ) %					
②レポート ( ) %					
③実技試験 ( ) %					
④面接試験 ( ) %					
平常点評価			<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない		

[フィードバックの方法]

課題について、第8回講義時に解説し、フィードバックを行う。

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-B-12-23

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育内容 (健康)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 中谷 昌弘	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	3セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関(高等学校)での勤務経験を活かしてより具体的、実践的な授業を進め教員免許取得に関する授業を展開する。				
[授業の目的・ねらい] 保育内容領域「健康」におけるねらいや内容を理解し、乳幼児が心身ともに健やかに成長するための指導方法や援助を導き出すことができる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「健康」領域を理解し、子ども自ら多様な活動に意欲的に取り組み、健康で安全な生活をつくり出し、生活を営む力を身につけていく保育・教育のあり方を学ぶ。授業では模擬保育とその振り返りを通して保育を構想する方法を身に付ける。また、模擬保育に必要な指導案作成や保育指導で有効な情報機器及び教材の活用方法も理解し、授業内のみならず教育実習や就職後を見据えた活用の仕方について理解を深める。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] (1) 保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「健康」についてのねらい及び内容を理解し、子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を修得することができる。 (2) 子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「健康」について具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) 領域「健康」のねらいと内容理解、子どもの遊び、安全管理と安全教育					
2) 領域「健康」における模擬保育の題材設定と保育指導案の作成					
3) 運動遊びの理論と指導法①(模擬保育を含む)					
4) 運動遊びの理論と指導法②(模擬保育を含む)					
5) 運動遊びの実践と指導援助の検討①(模擬保育を含む)					
6) 運動遊びの実践と指導援助の検討②(模擬保育を含む)					
7) 運動遊びの実践と指導援助の検討③(模擬保育を含む)					
8) 模擬保育の振り返り、子どもの健康を取り巻く現状と課題～まとめ					
[使用テキスト] ・文部科学省「幼稚園教育要領」 ・厚生労働省「保育所保育指針」 ・内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」					
[参考文献] 必要に応じてプリントなどを配布					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認 ( %)					
② 実技・作品発表 ( %)					
【定期試験】					
① 筆記試験 ( %)					
② レポート (50%)		指導案の作成			
③ 実技試験 (50%)		模擬保育の実践			
④ 面接試験 ( %)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] ・模擬保育の実践後、全体でディスカッションを行う。					
[備考]					

- ・グループワーク、ディスカッションへの積極的な参加を期待します。
- ・集中講義 2026年4月16.30日(各日2コマ)、23日(4コマ)  
23.30日においては松江市総合体育館で実施する。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-B-12-29

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育内容 (人間関係)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 小林 美沙子	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	教育機関 (幼稚園教諭) での勤務経験を活かし、より具体的・実践的な授業を展開する。				
[授業の目的・ねらい] 幼児の発達や学びの過程を理解し、様々な指導場面を想定した保育を構想する力を身につける。					主に対応するD P 1
[授業全体の内容の概要] 幼稚園教育要領において育みたい資質・能力について理解し、乳幼児が人との豊かなかかわりを育んでいくための保育のあり方について学びを深める。そのため、幼稚園教育要領の内容を把握するとともに、乳幼児期における人間関係の発達の道筋を理解することを目指す。また、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を構想する方法を習得することを目指す。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ①幼稚園教育の基本を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力について理解する。 ②幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。 ③領域「人間関係」にかかわる様々な指導場面を想定した保育を構想する					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 領域「人間関係」のねらいと内容			講義で配布した資料に目を通す (15 分)		
2) 自立心を育む保育の展開と援助			講義で配布した資料に目を通す (15 分)		
3) 家族や地域との関わりと援助			講義で配布した資料に目を通す (15 分)		
4) 人との関わりや遊びを広げる保育の環境—日々の保育の中での ICT 機器の活用			講義で配布した資料に目を通す (15 分)		
5) 人とのかかわりを広げる遊びの展開を考える①：計画の立案			グループワークの内容を振り返る (10 分)		
6) 人とのかかわりを広げる遊びの展開を考える②：教材研究			グループワークの内容を振り返る (10 分)		
7) 人とのかかわりを広げる遊びの展開を考える③：模擬保育			模擬保育の内容を振り返る (10 分)		
8) 人とのかかわりを広げる遊びの展開を考える④：振り返り			授業全体の学びを振り返る (15 分)		
[使用テキスト] 「幼稚園教育要領解説」文部科学省、フレーベル館、2018					
[参考文献] 「保育所保育指針解説」厚生労働省、フレーベル館、2018 「これで安心！保育指導案の書き方」開仁志、北大路書房、2008 「改訂新版実習の記録と指導案」田中亨胤(監修)・山本淳子(編著)、ひかりのくに、2018					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( 60%)		授業内で提示した課題 (授業の振り返りシート 8 回, ワークシート 1 回)			
②実技・作品発表 ( 40%)		模擬保育指導案 (10%), 模擬保育 (30%)			
【定期試験】					
①筆記試験 ( %)					
②レポート ( %)					
③実技試験 ( %)					
④面接試験 ( %)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 提出された課題や実技 (模擬保育) に対して授業内で解説し、フィードバックを行う。					
[備考] なし					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-B-12-30

## 保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育内容 (環境)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 舟越 美幸・加藤 友彦	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	元保育者の経験を活かし、乳幼児期に必要な環境のあり方についてお伝えいたします。(舟越)				
[授業の目的・ねらい] ・専門的知識と技能の下に、子どもの発達を保障することができる。 ・指導案を立案し、保育内容「環境」に関わる保育を行うことができる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] ・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に記載されている領域「環境」を基に、子どもとヒト・モノ・コトとの関わりを理解し、「探索意欲と好奇心を育てる」ための保育内容のあり方を学ぶ。 ・子どもの興味・関心をひきつけ発達をうながす指導の工夫、小学校教育への連続性を学ぶことができるようにする。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] (1)小学校教育と関連付けながら「環境」にかかわる保育内容や環境づくりのあり方を説明することができる。 (2)設定保育において「環境」に関わる指導計画を立案できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 保育内容における「環境」・領域「環境」のねらい、内容、取り扱い (ディスカッション) (舟越) ・「環境と関わる力」を支えている身近な自然・生き物・文字や記号・数量と形・園内外の行事等について概要を理解する。			テキストや資料を見て、学習内容を理解しておく。(1 時間)		
2) 乳幼児期の探索意欲と好奇心を促す保育 (ディスカッション) (舟越) ・子どもとヒト・モノ・コトのかかわりを理解し、「探索意欲と好奇心を育てる」ために必要な保育内容や環境構成のあり方を学ぶ。			テキストや資料を見て、学習内容を理解しておく。(1 時間)		
3) 子どもと自然や園外保育 (ディスカッション) (舟越) ・自然を活用した保育から気づいたことについて話し合い、共有する。			テキストや資料を見て、学習内容を理解しておく。(1 時間)		
4) 保育内容 (環境) に関わる絵本と手遊び 教材研究 (舟越・加藤) ・模擬保育に必要な絵本や手遊びについて調べ、レポートにまとめる。			レポートを完成させ提出する。(1 時間)		
5) 子どもの数量理解と保育教材研究 (ディスカッション) (舟越) ・身近な文字や記号・数量と形を生かした保育から気づいたことについて話し合い、共有する。			テキストや資料を見て、学習内容を理解しておく。(1 時間)		
6) 教材研究と指導案作り (グループワーク) (舟越) ・グループで模擬保育の指導案を作成する。			指導案を完成させ提出する。(1 時間)		
7) 指導案を用いた模擬保育の実践 (グループワーク) (舟越・加藤) ・グループで模擬保育を行う。					
8) 指導案を用いた模擬保育の実践 (ディスカッション) (舟越・加藤) ・グループで模擬保育を行った内容について、話し合う。 ・小学校教育の繋がりを踏まえ「環境」に関わる保育のあり方について考える。					
[使用テキスト] 上中 修編 (2023) 『保育実践に生かす保育内容「環境」』教育情報出版					
[参考文献] 文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (30%)	絵本や手遊びに関するワークシート (20%)・模擬保育の振り返り (20%)				
②実技・作品発表 (30%)	指導案 (20%)・模擬保育 (10%) で評価をします。				
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (40%)	領域「環境」について、子どもと人・自然とのかかわりについての理解や、「環境」に関わる保育のあり方についての理解度等について評価をします。				
③実技試験 (%)					

④面接試験(%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]レポート課題について、そのポイントを授業後に解説する。	
[備考]質問、相談等ある場合には、Google Classroomで連絡する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-B-12-31

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 教育制度論		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 小早川 倫美	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	4 セメスター
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 本授業では、幼児教育の意義や内容、制度などの基礎を学び、幼児教育の現状と課題を把握することをねらいとする。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 本授業では、幼児教育の意義や内容、制度などの基礎的理解を図るとともに、これからの幼児教育について自ら考え、意見を述べるができることを目指す。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・幼児教育の意義、内容、制度について説明ができる。 ・幼児教育の現状と課題について、多角的な視点から説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 幼児教育の意義 (グループワークを含む)			予習：シラバスについて確認する (30分)		
2) 幼児教育の制度と歴史 (1) : 日本と諸外国			授業内容について振り返る (1時間)		
3) 幼児教育の制度と歴史 (2) : 日本と諸外国			授業内容について振り返る (1時間)		
4) 戦後日本における幼保二元体制の確立			授業内容について振り返る (1時間)		
5) 現代における幼児教育と保育者の役割 (グループワークを含む)			授業内容について振り返る (1時間)		
6) 保育行政の現状と課題 (1) : 子育て支援政策との関連から (グループワークを含む)			授業内容について振り返る (1時間)		
7) 保育行政の現状と課題 (2) : 保育をめぐる日本の課題から (グループワークを含む)			授業内容について振り返る (1時間)		
8) これからの幼児教育			全8回の授業内容の復習 (2時間)		
[使用テキスト] 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 文部科学省・厚生労働省・内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館					
[参考文献] 授業中に適宜紹介する					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (40%)		授業中の課題、振り返り小テスト			
②実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (60%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 授業中の課題や小テストについては、次回授業時にフィードバックを行う。					
[備考] 保育にかかわるニュース等に目を向けるようにしておいてください。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-B-10-36

## 保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育・教育相談演習		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 平野 美緒	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	4 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	臨床心理士として保育・教育・医療などの場でカウンセリングや発達相談の心理的援助に従事した経験をもとに講義する。				
[授業の目的・ねらい] 子どもの発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身に付け、実践できる。					主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] 保育・教育相談に関する基礎的な心理学的知識及び技能に関する講義内容を取り扱う。また、相談援助の技法については、ロールプレイ等を通して授業を進める。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・保育・教育相談の意義と課題を理解し、説明できるようになる。 ・保育・教育相談を進める際に必要な基礎的な知識 (カウンセリングの意義、理論、技法を含む) を理解し、説明できるようになる。 ・子どもや保護者をとりまく多様な課題に対して、専門的な知識に基づいて多面的に把握し、支援が実践できるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 保育・教育相談の意義と役割					
2) 保育・教育相談に関わる心理学的基礎的理論					
3) 子どもの発達と臨床 (1) 愛着と対人関係の発達					
4) 子どもの発達と臨床 (2) 発達上の課題と不適応			第1～4講の講義内容についての小レポートを作成する。(30分程度)		
5) 保育・教育相談の技法 (1) カウンセリングの基礎理論及び技能についてロールプレイを通して学ぶ。					
6) 保育・教育相談の技法 (2) 保護者支援についてロールプレイを通して学ぶ。					
7) 保育・教育場面での相談体制や他職種・他機関との連携					
8) これまでの学習のまとめと振り返り 到達度確認テストの実施			第5～7講の講義内容について的小レポートを作成する。(30分程度)		
[使用テキスト] 石井正一郎、藤井泰 (編著) 『エッセンス学校教育相談心理学』北大路書房					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (100%)					
②実技・作品発表 ( ) %					
【定期試験】					
①筆記試験 ( ) %					
②レポート ( ) %					
③実技試験 ( ) %					
④面接試験 ( ) %					
平常点評価			<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない		
[フィードバックの方法] 課題について、第8回講義時に解説し、フィードバックを行う。					

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-B-12-37

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 教育方法論		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 堅田 弘行・小山 優子 (オムニバス)	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	2単位	配当	4セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 幼稚園教育を通して育てたい幼児の資質・能力と幼児期の終わりまでに育てたい力を理解し、その力を育てるための教育方法を学修する。また、幼稚園で行なわれる教育実践を具体的に知り、指導と評価の方法に役立てることを目標とする。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 子どもと教師をつなぐ具体的な手立てとして、どのような方法があり、その方法が生み出されるにはどのような歴史的変遷、あるいは思想的な背景があるのかを解説しながら、教育方法とは何かについて考える。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] (1)子どもを主体とした教育方法の原理を理解し、幼児への指導法について実践事例を通して具体的に理解する。 (2)学校教育における情報機器の活用状況から、幼児期にふさわしい教育方法を考える。 (3)個別理解や学級経営などの子どもの育ちを支える指導方法や評価方法を理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 幼児期の教育の目的と目標、幼児の発達特性の理解【堅田】					
2) 「環境を通して行なう教育」、教育方法と保育形態【堅田】					
3) 遊びと生活を通じた保育の実際【堅田】					
4) 小学校就業前までの発達課題と幼児に育みたい資質・能力【堅田】					
5) 幼児の発達に合わせた遊び【堅田】					
6) 生活の場でのグループ・集団活動、当番活動や行事などにおける教育方法【堅田】					
7) 保育における個別理解と集団理解【堅田】					
8) 幼児への指導・援助の具体的方法【堅田】					
9) 幼児の協同的な学びと実践【堅田】					
10) 幼児教育と小学校教育との連携【堅田】					
11) 幼児教育における情報機器の活用と課題【小山】					
12) 教育方法上の配慮事項と指導計画の作成【小山】					
13) 幼児理解と保育の記録・保育の評価【小山】					
14) 保育実践研究と保育カンファレンス【小山】					
15) 指導者としての資質の向上【小山】			(事後学習)第11回～15回の授業中に視聴したDVDについて、ワークシートの「まとめ」に自分の感想や意見を記述する(約30分)		
[使用テキスト] 北野幸子・小山(小野)優子『乳幼児カリキュラム論』建帛社2010年 『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』 チャイルド本社					
[参考文献] 参考文献などは授業の中で適宜提示するとともに、必要に応じてプリントなどを配布する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( % )					
②実技・作品発表 ( % )					
【定期試験】					
①筆記試験 ( 100% )		到達目標に示した内容に関する論述問題によって評価をおこなう。			
②レポート ( % )					
③実技試験 ( % )					
④面接試験 ( % )					

平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 評価のポイントを試験終了後に掲示する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-B-12-38

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 子ども家庭支援論		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 安高 真弓	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	3 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	児童養護施設等でのスーパーバイズの経験等を活かし、家庭支援の理論と実践について講義する。				
[授業の目的・ねらい] 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的、支援の体制について理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。					主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] 本講義では、子ども家族支援が必要とされる社会的背景と意義を概観し、子ども家庭支援の構造と理念そしてソーシャルワークの理論をふまえ、効果的な支援のあり方や今後の課題について考える。とくに、家庭支援と子育て支援双方の視点から、保育者が行う家庭支援や地域の子育て支援の実践に着目する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 子ども家庭支援の意義や目的、支援体制について理解し、説明することができる。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援について理解し、多様なニーズに応じた家庭支援を考えることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション (トリセツ作成) 「家族とは?」			*各回授業範囲のノートまとめ (各1時間)		
2) 子ども家庭支援の意義と必要性 (家庭支援をする理由)			*日頃から、子育て支援、家庭支援に関連するテレビや新聞などのニュースに関心をはらい、情報を集めておく。		
3) 子ども家庭支援の意義と役割					
4) 保育士に求められる基本的態度					
5) 保育の特性と保育士の専門性を活かした子ども家庭支援					
6) 保護者の相互理解と信頼関係の形成					
7) 家庭の状況に応じた支援					
8) 地域の資源の活用と関係諸機関との連携・協力					
9) 子育て家庭の福祉を図るための社会資源					
10) 子育て支援施策・次世代育成支援策の推進					
11) 子ども家庭支援の内容と対象					
12) 保育所等利用児童の家庭への支援					
13) 地域の子育て家庭への支援					
14) 要保護児童及びその過程に対する支援					
15) 子ども家庭支援に関する現状と課題					
[使用テキスト] 子ども家庭支援論 第2版 建帛社 2023年					
[参考文献] 必要があれば補足的な資料を適宜配布する					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (40%)	必要に応じてレポート課題を課す。				
②実技・作品発表 ( )%					
【定期試験】					
①筆記試験 (60%)					
②レポート ( )%					
③実技試験 ( )%					
④面接試験 ( )%					
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法] 提出された課題についてコメントする。					
[備考] 配布資料をつづるファイルを各自用意すること。講義のたびにリアクションペーパーの提出を課す。					

講義内容、レポートなどは、予告なく変更することがある。マーカー、付箋など適宜準備すること。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-B-10-41

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 子どもの健康と安全		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 鵜野 安希子	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		小児科病棟勤務経験のある教員が、その経験を活かした具体的、実践的な講義を行う。			
[授業の目的・ねらい] 子どもの保健に関する基礎的な知識をもとに、保育現場における子どもの健康と安全を確保するための実践的な力を身につけることを目的とする。					主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] 本授業では、子どもの成長・発達や健康を守るために必要な保健活動を学びます。病気の予防やアレルギーへの対応、心の健康問題について基礎的な知識を身につけます。また、事故や災害などのリスクに対応する能力を育成します。さらに、乳幼児の健康や成長を観察・評価する方法について理解を深め、保育現場での健康・安全管理に必要なスキルを習得します。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
1. 子どもの健康や心身の発育・発達を促すための保健活動や保育環境について説明できる。					
2. 子どもの疾病や事故の予防策、適切な対応方法を実践できる。					
3. 子どもの健康および安全管理に関する保健活動の計画を立案し発表できる。					
4. 保育現場における衛生管理、感染症対策、事故防止の方法を具体的に説明し実践できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 感染症の流行予防のための対応			演習項目について必ず予習すること (30分程度)		
2) 衛生管理の実際 (手洗い、吐物処理)			演習項目について必ず予習すること (30分程度)		
3) 子どもの健康の観察 (体温測定、脈拍測定など) と記録			演習項目について必ず予習すること (30分程度)		
4) 体調不良時の対応			演習項目について必ず予習すること (30分程度)		
5) 子どもの発育の測定 (乳幼児の身体計測)			演習項目について必ず予習すること (30分程度)		
6) 子どもの発育の評価			演習項目について必ず予習すること (30分程度)		
7) 3歳児未満児への対応			演習項目について必ず予習すること (30分程度)		
8) 救急処置および心肺蘇生法			演習項目について必ず予習すること (30分程度)		
[使用テキスト] 小林美由紀 (編著) : 授業で現場で役に立つ! 子どもの健康と安全 演習ノート 改訂第3版, 2024, 診断と治療社					
[参考文献] 講義に必要な資料を授業の中で紹介する					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( ) %					
②実技・作品発表 ( 80%)		毎回の演習内容レポートにて評価する (演習態度も含む)			
【定期試験】					
①筆記試験 ( ) %					
②レポート ( 20%)		保健便りの作成			
③実技試験 ( ) %					
④面接試験 ( ) %					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 授業後に授業アンケートを実施し、質問があれば次の講義でフィードバックします。					
[備考] 主体的に技術習得できるよう心掛け、動きやすい服装 (エプロン着用)、身だしなみ (髪型、爪等) に注意して参加する。備品の取り扱いに注意し、汚したり破損しないようにする。準備、洗浄、後片付けは各自積極的に行う。準備や後片付けへの態度も評価に入ります。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-B-12-44

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 社会的養護Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	3セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	元児童自立支援施設児童自立支援員(嘱託)としての実務経験を活かし、社会的養護施設における日常生活支援の内容と方法について伝えます。				
[授業の目的・ねらい] 「子どもの最善の利益のために」と「すべての子どもを社会全体で育む」という社会的養護の基本理念の理解のもと、事例を通して社会的養護施設で生活する児童の処遇や職員の児童に対する適切なアプローチについて考える力を身に付ける。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 学生自身の「学びの過程」を追跡するために学習日誌を作成する。事例を通じたグループワークを中心に講義・演習を行う。各回に予習課題と授業終了時課題を課し、期限内の提出を求める。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 児童養護施設における具体的な養護の方法を、理論的かつ法的根拠に基づいて説明できる。 2. 事例をもとにアセスメントを行い、支援計画を立案することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) アドミッションケアからアフターケアまでの流れを概観し、実際の支援に至るまでの過程を学ぶ。			予習課題：社会的養護におけるケアマネジメントの意義について考える。(1時間)		
2) 支援方針の決定までの流れを確認する。ケース理解のための手法としてジェノグラムとエコマップを作成する。			予習課題：社会的養護施設を一つ挙げ、関連する他機関や地域資源を調べる。(0.5時間)		
3) 援助方針を立てる際の留意点について確認する。事例をもとに長期方針・短期方針に基づく支援内容を検討する。(グループワーク)			予習課題：テキスト(p96)の事例を読み、「ケアにおける明確な目標設定と具体的な計画設計」の意義について考察する。(1時間)		
4) インケアを中心に養護の具体的方法を学ぶ。			予習課題：社会的養護施設における日課や規則の意義について考察する。(1時間)		
5) 事例から子どもの状態像、現在に至る背景要因について理解する。			予習課題：これまでの学習内容を復習し、不明な点や曖昧な点の解消に努める。(1時間)		
6) 職員にとって把握しにくい事柄、見逃しやすい症状を整理する。児童福祉施設における性暴力について視聴覚教材をもとに話し合う。			予習課題：乳幼児期から児童期にかけて見られる防衛機制について調べる。(0.5時間)		
7) 愛着形成の重要性、施設入所や里親委託による子どもへの影響を考える。			予習課題：テキスト(p176～)を読み、「社会的養護における愛着の重要性」について考察する。(1時間)		
8) 事例から援助方針を策定する。(グループワーク)			予習課題：事例資料をもとに、対象児の課題を整理する。(1.5時間)		
[使用テキスト] 喜多一憲監修、『社会的養護Ⅱ』, 2024, みらい。					
[参考文献] 山口李香, 『児童養護施設の生活環境のダイナミクス 家庭で暮らせない子どもの育ちと職員の実践』, 2024, 学文社。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (40%)	指定された期日までに提出された学習日誌によって評価する。				
②実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (60%)	課題事例における支援内容と方法を、支援上の留意点を踏まえ事実に基づいて提案できるかどうかで評価する。				
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する				

受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない

[フィードバックの方法]

希望者に対して、試験終了後に解説をおこなう。

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-B-12-50

## 保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 子育て支援演習		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 増原 真緒	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	4 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	現場保育者の経験を踏まえ、子育て支援の実際について伝えます。				
[授業の目的・ねらい] 保育者の行う保育の専門性を背景とした保護者や地域に対する相談、助言、情報提供等の支援の必要性とその実際について理解する。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 保育者の行う子育て支援について様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ① 保育者の行う子育て支援の意義・役割を理解できる。 ② 子育て支援の対象となる子ども・保護者を理解し、実践事例の調査から子育て支援に繋がる活動の考案や適切な対応スキルを身に付ける。 ③ 社会資源の活用や地域の関係機関と協働し支援を行う必要性について理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 子育て支援とは：保育所保育指針 (pp.328-42) より ・保育所における子育て支援 ・地域における子育て支援 ・障がいや特別な配慮等多様なニーズを抱える子育て家庭の理解と虐待予防			テキスト該当箇所を読んでおく (20分程度)		
2) 保護者理解とかかわり方：事例検討を通して保護者の悩みを知る。 ・日常的な関わりを通じた保護者理解と信頼関係の構築 ・子どもや保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供					
3) 子育て支援の計画①：子育て支援イベントの活動内容調査					
4) 子育て支援の計画②：子育て支援イベント企画案の作成					
5) 子育て支援の企画準備①：企画案の完成，チラシまたはおたより作成					
6) 子育て支援の企画準備②：チラシまたはおたより作成～完成					
7) 子育て支援の実践①：発表					
8) 子育て支援の実践②：発表・まとめ					
[使用テキスト] 厚生労働省 (2018) 『保育所保育指針解説』フレーベル館					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (45%)	第4回：企画案の提出と内容：個別提出 (20%)， 第6回：チラシまたはおたよりの提出と内容：個別提出 (25%)				
②実技・作品発表 (15%)	第7-8回：発表の工夫 [分かりやすい伝え方]				
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (40%)	子育て支援における重要性と自分が心掛けたことについてのレポート				
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法] 第8回の発表後に総評を行い、子育て支援における留意事項や工夫をコメントする。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-B-12-53

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 表現技術Ⅲ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤 友彦・長島 佳奈・増原 真緒	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	3セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	元保育者経験を活かし、保育における表現技術について伝えます。				
[授業の目的・ねらい] 子どもの豊かな心を育むために、テーマに即した言語表現、音楽表現、造形表現、身体表現を総合した表現を構想し、構想にもとづいて製作し、発表したり鑑賞したりすることを通して表現技術を習得することを目的とする。4セメスターの「総合表現」につながる活動とする。					主に対応するD P 1
[授業全体の内容の概要] 総合表現への足掛かりとなる表現活動に向けた準備を行うため、題材となるテーマを決定し、そのテーマの世界観を表現することのできるワークショップや表現について検討、準備行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標) ] ・決定したテーマを題材に、子どもを対象とした表現活動を計画し、第8回終了時点で個別および担当部署ごとの成果・課題を明確化した上で、「総合表現」での取り組み計画を作成できる。 ・各授業回における自身の取り組みや役割を振り返り、ワークシートに具体的な成果と課題を記述することを通して、次の活動や発表に生かすことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション: 授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。【増原】 ・テーマの検討 (テーマの世界観を表現できるワークショップ・子どもに向けた発表・参加型の遊び場等) の視点で内容を考え発表し合い、その結果から題材を決定する。 ・実施する活動の検討、決定 ・活動グループの選択 (希望調査)					
2) 構想・検討〈グループ活動〉【長島】 ・グループの決定 ・構想、計画書、準備物等についての書類を作成し、グループごとに方向性を定める。					
3) 構想・検討〈グループ活動〉 事前活動①〈グループ活動〉 ・計画にもとづき、グループごとに準備にとりかかる。			各回の活動内容と成果をワークシートに整理して記録しておくこと。		
4) 事前活動②〈グループ活動〉 ・計画にもとづき、グループごとに準備を進める。			〃		
5) 事前活動③〈グループ活動〉 ・計画にもとづき、グループごとに準備を進める。			〃		
6) 事前活動④〈グループ活動〉 ・計画にもとづき、グループごとに準備を進める。			〃		
7) 事前活動⑤〈グループ活動〉 ・計画にもとづき、グループごとに準備を進める。			〃		
8) 事前活動⑥〈グループ活動〉／途中経過報告【加藤】 ・計画にもとづき、グループごとに準備を進める。 ・部署ごとに進行状況を発表し合い、方向性の確認を行う。			〃		
[使用テキスト] なし					
[参考文献] なし					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( 100%)		取り組み姿勢 (30%)、ワークシート (70%)			
②実技・作品発表 ( %)					

【定期試験】	
①筆記試験 ( %)	
②レポート ( %)	
③実技試験 ( %)	
④面接試験 ( %)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 学生個々の取り組み姿勢、状況および進行状況を鑑み、各教員からコメント・助言をする。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-20-56

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 総合表現		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤 友彦・長島 佳奈・増原 真緒	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	4 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		元現場保育者の経験から、幼児の表現活動における保育の実際や実践等について伝えます。(増原)			
[授業の目的・ねらい] 子どもの豊かな心を育むために、絵本の世界をテーマに「表現技術Ⅲ」の計画を踏まえた総合的な活動の製作を通して、表現技術を習得することを目的とする。					主に対応するD P 5
[授業全体の内容の概要] 第 1 回～8 回までは製作を行う。第 9～10 回で準備をし、第 11～12 回で発表を行い、第 13 回で片付けをする。第 14 回～15 回で鑑賞と振り返りを行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] テーマにもとづいた、子どもの発達や興味・関心に応じた総合的な活動を製作、発表、鑑賞、振り返りを通して、子どもの表現活動を理解し、表し方や伝え方を習得し、学びを省察する力をつける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。 製作①：各グループで活動する。			事前に、室内装飾の準備を終えておく。 (1 時間～2 時間)		
2) 製作②：各グループで活動する。			授業時間内に予定通りに進まなかった場合は課外で製作する。(1 時間)		
3) 製作③：各グループで活動する。					
4) 製作④：各グループで活動する。					
5) 製作⑤：各グループで活動する。					
6) 製作⑥：各グループで活動する。活動のリハーサルをする。					
7) 製作⑦：各グループで活動する。リハーサルの様子を踏まえ、修正を施す。					
8) 製作⑧：各グループで活動する。リハーサルの様子を踏まえ、修正を施す。準備を終える。					
9) 準備①：前日の準備をする。					
10) 準備②：直前の準備をする。(2026 年 12 月 5 日 1 限目予定)					
11) 発表①：来場者に発表をする。(2026 年 12 月 5 日 2 限目予定)					
12) 発表②：学生同士で発表を鑑賞・参加しあう。(2026 年 12 月 5 日 3 限目予定)					
13) 片付け：会場の片づけをする。(2026 年 12 月 5 日 4 限目予定)					
14) 鑑賞：発表の動画を鑑賞し、各グループで発表の振り返りをする。					
15) 学習のまとめ：「総合表現」の学習を振り返る。					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] なし					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( 50%)		第 1 回～8 までの活動の様子で評価する。			
②実技・作品発表 ( 25%)		第 11 回の発表の様子で評価する。			
【定期試験】					
①筆記試験 ( %)					
②レポート ( 25%)		保育・幼児教育における表現活動の意義を考察する。			
③実技試験 ( %)					
④面接試験 ( %)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法]					

第 14～15 回の鑑賞と振り返りで、各教員からコメントをする。

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-20-57

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 子どもの造形表現 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤 友彦	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	3セメスター 選択必修
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 様々な表現活動 (造形遊び) を通して、造形表現の知識と技能を身につけ、保育・幼児教育における表現の理解を深める。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 保育・幼児教育の中で用いられる材料・素材による製作、テーマに応じた児童文化の製作と発表をし、鑑賞と振り返りをして、表現活動について話し合い、ポートフォリオを作成する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・材料・素材の特性や目的に応じて、表現することができる。 ・作品のよさや作者の工夫を感じ取ることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション: 授業の概要を把握する。 造形遊び①: 新聞紙を用いて遊ぶ。遊びの様子は画像で記録しデータ提出する。					
2) 造形遊び②: 土粘土を用いた造形遊びをし、オノマトペをテーマにした作品をつくる。作品は画像で記録しデータ提出する。					
3) 造形遊び③: 牛乳パックを用いて玩具を製作する。遊ぶ様子は画像で記録しデータ提出する。					
4) 造形遊び④: ペットボトル人形を製作する。作品は画像で記録しデータ提出する。			モチーフを考えておく。(1時間)		
5)6)7) 児童文化: スケッチブックシアターを製作、発表する。作品と発表の様子は画像で記録しデータ提出する。			テーマを考えておく。(1時間)		
8) 鑑賞とまとめ: 作品と発表の様子を鑑賞し、表現意図や工夫について話し合い、ワークシートにまとめる。			記録した画像をPCに取り込み、Wordに挿入できるようにしておく。(1時間)		
[使用テキスト] 上野 奈初美 編著 『表現指導法』 萌文書林 ※「幼児と表現」で使用					
[参考文献] 樋口 一成 編著 『幼児造形の基礎』 萌文書林					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (80%)	作品…提出: 主題: 内容=2:3:5 ※テーマを与えられているときは、提出: 内容=1:4 ワークシート…提出: 記述: 内容=2:3:5				
②実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (20%)	作品をまとめたポートフォリオの形式で作成する。 記述 (レイアウト構成を含む): 内容=2:3				
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法] 第8回の鑑賞と振り返りで、作品についてコメントする。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-20-58

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 子どもの造形表現Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤 友彦	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	4 Semester 選択必修
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 様々な表現活動 (造形遊び) を通して、造形表現の知識と技能を身につけ、保育・幼児教育における表現の理解を深める。また、図画作品展審査会に参加し、子どもの絵 (描画表現) の理解を深める。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 保育・幼児教育の中で用いられる材料・素材による製作し、ポートフォリオを作成する。また、図画作品展審査会に参加し、審査補助をする。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・材料・素材や表現技法の特性に応じて、表現することができる。 ・子どもの絵 (描画表現) のよさを感じ取るができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション: 授業の概要を把握する。 造形遊び①: 紙飛行機をつくり、飛ばして遊ぶ。遊びの様子は画像で記録しデータ提出する。					
2) 造形遊び②: 植物系の自然素材を用いて製作する。作品は画像で記録しデータ提出する。					
3) 造形遊び③: スクラッチの技法で表現する。作品は画像で記録しデータ提出する。					
4) 造形遊び④: 繊維類 (毛糸) を用いて製作する。作品は画像で記録しデータ提出する。					
5) 6) 7) 8) 島根県保育所 (園) ・幼稚園造形審査会に参加し、子どもの描画表現 (絵) の理解を深める。活動を通して感じた子どもの表現のよさをワークシートに記述する。 ※2026年11月末予定					
[使用テキスト] 上野 奈初美 編著 『表現指導法』 萌文書林 ※「幼児と表現」で使用					
[参考文献] 樋口 一成 編著 『幼児造形の基礎』 萌文書林					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( 80%)		作品…提出: 主題: 内容=2:3:5 ワークシート…提出: 記述: 内容=2:3:5			
②実技・作品発表 ( %)					
【定期試験】					
①筆記試験 ( %)					
②レポート ( 20%)		作品をまとめたポートフォリオの形式で作成する。 記述 (レイアウト構成を含む) : 内容=2:3			
③実技試験 ( %)					
④面接試験 ( %)					
平常点評価		<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 第8回の鑑賞と振り返りで、作品についてコメントする。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-20-59

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 子どもの音楽表現 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 長島 佳奈	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	3セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 保育現場において求められる「子どものうたの弾き歌い」を中心に、音楽的技能と保育場面に応じた実践力の両面から理解を深めることを目的とする。 子どもの発達や活動の流れを踏まえ、歌い出す前の導入、声かけ、テンポや調の選択、弾き歌い中の関わりなどを含めた実践的な弾き歌いを身につけることをねらいとする。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 本授業では、保育現場で用いられる子どものうたを題材に、ピアノによる弾き歌いの実践を行う。 1年次に学修した基礎的なピアノ技能を踏まえ、楽譜どおりに弾くことにとどまらず、子どもの姿を想定しながら、テンポや調の選択、前奏や終止の工夫について学ぶ。 さらに、弾き歌いを行う前の言葉かけや問いかけといった導入の在り方について理解を深めるとともに、朝の会や帰りの会、活動の中など、日常の保育場面において歌がどのように用いられているのかを踏まえ、保育の流れに沿った弾き歌いの実践に取り組む。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ①子どものうたの弾き歌いについて、保育現場を想定した形で演奏することができる。 ②子どもの発達や活動場面を踏まえ、弾き歌い前の導入や声かけを通して音楽への関心を促すことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーションと個人レッスン①: 授業の進め方や到達目標について確認を行うとともに、受講生一人ひとりのピアノ経験や技能の把握を行う。あわせて、正しい姿勢や手の形、指使いなど、ピアノ演奏の基礎を確認し、今後の学修に向けた個別の課題設定を行う。					
2) 個人レッスン②: 子どものうたを題材に、演奏を止めずに弾くことを意識しながら、安定した伴奏による演奏力の向上を図る。必要に応じて、コードネームについても学修する。			事前に指定される課題について、授業時間外で十分に練習を行ったうえで授業に臨むこと。また、練習状況を記録し、自分の状況を自覚しながら学習を進めること。(1~3時間)		
3) 個人レッスン③: 歌唱とピアノ演奏を同時に行う弾き歌いに取り組む。声と伴奏のバランスに留意しながら、一定のテンポを保って弾き歌いを行う。			〃		
4) 個人レッスン④: 子どものうたを用いて、テンポや調の違いによる歌いややさの変化を体感する。同一の楽曲を複数のテンポや調で弾き歌いすることで、子どもの姿を想定した演奏について考える。調の違いについては、受講生の習熟度に応じて扱う。			〃		
5) 個人レッスン⑤: 弾き歌いにおける前奏や終止の役割について理解を深めるとともに、弾き歌いを行う前の言葉かけや問いかけといった導入の在り方について学ぶ。			〃		
6) 個人レッスン⑥: 朝の会や帰りの会、活動の中など、日常の保育場面を想定した弾き歌いを行う。場面に応じたテンポや声量、間の取り方を意識しながら演奏に取り組む。			〃		
7) 個人レッスン⑦: 発表会に向けて、これまでに学修した内容を踏まえ、子どものうたを用いた弾き歌いの練習を行う。発表を想定しながら、演奏全体の流れを意識した弾き歌いに取り組む。			〃		
8) 発表会: これまでの授業で学修してきた内容を踏まえ、子どものうたを用いた弾き歌いの発表を受講者全員の前で行う。					
[使用テキスト] 『こどものうた 100』チャイルド本社 適宜、個人の習熟度に合わせて様々なテキストを薦める。					

[参考文献]	
『子どものための音楽表現技術—感性と実践力豊かな保育者へ』 萌文書林	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認 ( 40%)	レッスン毎に楽曲の到達度の確認をする。
②実技・作品発表 ( 60%)	発表会において、課題への取り組み姿勢 (10%) および課題の習熟度 (40%)、振り返りシート (10%) で評価する。
【定期試験】	
①筆記試験 ( %)	
②レポート ( %)	
③実技試験 ( %)	
④面接試験 ( %)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
毎回の授業において受講者の課題に対するフィードバックを行う。発表会では総評および振り返りを行う。	
[備考]	
履修者数を定員 6 名とし、上限を超える履修希望が出た場合、抽選を行う。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-20-60

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 子どもの音楽表現Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 長島 佳奈	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	4セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 一台のピアノによる4手または6手の連弾による音楽体験を通して、音楽表現力の向上を図ることを目的とする。連弾は、ピアノを演奏する技術や表現力のほか、他者と一緒に演奏するためのコミュニケーションスキルが必要である。協力して楽曲を創り上げ、完成させて演奏するという視点から、保育者として必要な協調性や人への思いやりなど、周りの人もうまにかかわる能力も向上させることをねらいとする					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] ・連弾ではグループレッスンをを行う。習熟度に合わせて段階を得てレッスンをを行う。 ・最終回ではピアノ連弾の発表会を実施する。 ・発表会後は振り返りを行う。学生は、人前で演奏することを通して、発表の場における子どもの気持ちを体感し、保育者としてどのような配慮が必要かについてグループワークで考察してもらう。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・お互いの音を聴き、息遣いを感じながら、共同演奏の能力を向上することができる。 ・表現したいイメージや感情を共有し、それを音楽として表現することができる。 ・ピアノを演奏する技術と、連弾するためのコミュニケーションスキルを伸ばすことができる。 ・他者と協力しながら楽曲を完成させるチームワークを身につける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション ・連弾の基本的な弾き方について (指の位置、パートの役割など) ・ペア (あるいは3人) の決定、曲目の選定					
2) グループレッスン①: ピアノ連弾のレッスンをメンバーごとに受ける。			授業で出された課題について、都度自主的に練習を行うこと (1~2時間)。		
3) グループレッスン②: ピアノ連弾のレッスンをメンバーごとに受ける。			〃		
4) グループレッスン③: ピアノ連弾のレッスン内に発表会の曲目の決定をする。			〃		
5) グループレッスン④: ピアノ連弾のレッスンを受ける。 プログラムの考案①: 発表会に向けて、簡単な曲目解説も作成する。 演奏順や進行の仕方も考案する。			〃		
6) グループレッスン⑤: ピアノ連弾のレッスンを受ける。他者と協力しながら楽曲を完成させるための練習方法を学ぶ。 プログラムの考案②: 発表会の演奏順の決定。各メンバーの曲目解説をまとめる。プログラム用紙を作成する。			・授業で出された課題について、都度自主的に練習を行うこと (1~2時間) ・曲目解説の作成が間に合わなかった場合、課外で完成させること (30分~1時間)		
7) リハーサル: 発表会のリハーサルを行う。リハーサル後、ピアノ連弾のレッスンを受ける。完成度を高めるために、各自が工夫し表現する方法を身につける。			・授業で出された課題について、都度自主的に練習を行うこと (1~2時間) ・プログラム用紙が完成できなかった場合、完成させ、指定期日までに提出すること (30分~1時間)。		
8) 発表会、振り返り (グループワーク)			・楽曲の完成に向け練習を行うこと (1~2時間)		
[使用テキスト] 適宜、資料を配布します。					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					

【平常試験】	
①到達度の確認（40%）	レッスン毎に楽曲の到達度の確認をします。
②実技・作品発表（60%）	リハーサル（課題への取り組み姿勢10%、課題の習熟度10%）、発表会（課題への取り組み姿勢10%と、課題の習熟度30%）で評価します。
【定期試験】	
①筆記試験（%）	
②レポート（%）	
③実技試験（%）	
④面接試験（%）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
毎回の授業において受講者の課題に対するフィードバックを行う。発表会では総評および振り返りを行う。	
[備考]	
履修者数を定員12名とし、上限を超える履修希望が出た場合、抽選を行います。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-20-61

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 子どもの言語表現		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 増原 真緒	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	現場保育者経験を活かして、絵本の魅力および保育における活用方法について教示します。				
[授業の目的・ねらい] ・子どもの豊かな心を育むため、絵本の魅力と子どもの成長にもたらす効果について理解し、自分なりの考えを説明することができるようになる。 ・絵本の読み込みから、絵本の奥深さや可能性を知り、絵本理解や作者のメッセージ性に基づいた絵本の読みあいを計画・実践できるようになる。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] ① “Share books” (=絵本で時間を共有し、人と人とを繋げる絵本) の視点から、絵本の効果について考える。 ② 絵本の読み込みを通して絵本理解を深める経験を経て、フィールドワークに向けた絵本の読み込みを行う。 ③ フィールドワークでは地域の保育所における 3～5 歳児クラスで、ペアになって計画したおはなし会を行う。 ④ フィールドワークの振り返りから、絵本理解を深めた上での読みあいについて考察を深める。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・絵本の読み込みから内容やメッセージ性、隠れた工夫・内容等を発見し、絵本理解を深めるための視点を得ることができる。 ・理解を深めた絵本を用いて子どもと絵本を読みあい、世界感を共有するための姿勢や雰囲気づくりができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ・ “Share books” (=絵本で時間を共有し、人と人とを繋げる絵本) について講話から理解を深める ・読み込みと絵本理解の事例 ・絵本の読み込み (練習)					
2) フィールドワークに向けた事前準備① グループごとに、おはなし会テーマの検討～決定。 担当する絵本の決定。					
3) フィールドワークに向けた事前準備② ・担当する絵本の読み込み。 ・絵本理解の共有から気づきの深め合い。					
4) ・グループごとのデモンストレーション ・相互評価からグループ内での見直し・内容検討					
5) フィールドワークの事前準備 (デモンストレーションから見直し・改善)					
6)7) おはなし会の開催 (フィールドワーク) ・直前準備と打ち合わせ、移動 ・グループごとにおはなし会の実施。					
8) ・フィールドワークの振り返り ・まとめ (総評)			第 7 回で課題提示した振り返りシートを時間外学習にて完成させ、第 8 回授業で活用できるよう持参すること。(0.5 時間)		
[使用テキスト] 適宜、資料を配布します。					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( 20 %)	フィールドワークに向けた準備への取り組み姿勢 (20%) を評価します。				
②実技・作品発表 ( 40 %)	リハーサルの取り組み姿勢 (15%) , フィールドワーク当日の取り組み姿勢 (25%) にて評価します。				
【定期試験】					
①筆記試験 ( %)					

②レポ ー ト ( 40 %)	絵本理解と活用に関するレポートを作成して提出してもらいます。 (予定項目：自分が選んだ絵本のあらすじ，読み込みからの気づき，著者の経歴， キーワード，保育の場における活用方法の提案と留意点)
③実 技 試 験 (    %)	
④面 接 試 験 (    %)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] デモンストレーション後に助言指導を行い，ワークショップ後の第8回に全体に向けた総評を行います。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-20-62

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 地域課題演習		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤 友彦・長島 佳奈	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	4セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 本授業は、1年次の「地域実践演習Ⅰ・Ⅱ」での学びを踏まえ、学生が身近な地域社会の現状に目を向け、地域課題を主体的に抽出・分析し、その解決に向けた具体的な方策を検討・実践することを目的とする。地域との関わりを通して、課題探求力、協働力、実践力を高めるとともに、保育者として地域に関わり続ける姿勢を養う。					主に対応するD P 1
[授業全体の内容の概要] 近隣地域における課題を見出し、調査や分析等を通してその背景を知るとともに、実現可能な解決策を構想する。また、構想した取り組みを実践し、その成果と課題を振り返ることで、地域課題に向き合う一連のプロセスを学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ①地域の課題を捉え、その内容や背景を整理することができる。 ②地域の課題の背景や要因を整理し、解決に向けた方策を構想できる。 ③計画した取り組みを実践し、その成果と課題を振り返ることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：授業の概要を把握する。 ・身近な地域における課題を見出し共有する ・グループを編成する			計画通りに進まない場合は、課外で準備をする。(1～2時間)		
2) 地域課題の抽出 ・資料調査および情報収集を行う ・課題を抽出する。 ・取り組む課題を選定する。					
3) 地域課題の分析と検討 ・課題の背景および要因を整理する。 ・解決策のアイデアを出す。 ・取り組みの方向性を整理する。					
4) 課題解決に向けた方策の検討と準備① ・計画を具体化する。 ・役割分担を行う。 ・実践に向けた準備を行う。					
5) 課題解決に向けた方策の検討と準備② ・計画を具体化する。 ・役割分担を行う。 ・実践に向けた準備を行う。					
6) 地域における実践① ・計画にもとづく取り組みを実施する。					
7) 地域における実践② ・計画にもとづく取り組みを実施する。 ・活動を記録し、整理し、共有資料を作成する。					
8) 振り返りとまとめ ・実践の成果と課題を検証する。 ・全体で共有し、まとめを行う。					
[使用テキスト]			なし		
[参考文献]			なし		
[試験の方法と学修成果の評価基準]					

【平常試験】	
①到達度の確認（ 80%）	活動のプロセスを評価する。
②実技・作品発表（ %）	
【定期試験】	
①筆記試験（ %）	
②レポート（ 20%）	活動報告書の形式で課す。記述：内容＝1：4で評価する。
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
各回の終わりに、適宜、コメントする。第8回で総括する。	
[備考]	
設定した課題や発表施設等の都合に応じて、開講日時は変更となることがある。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-30-63

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 社会的養護Ⅲ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	4セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	元児童自立支援施設児童自立支援員(嘱託)としての実務経験を活かし、社会的養護施設における日常生活支援の内容と方法について伝えます。				
[授業の目的・ねらい] 「子どもの最善の利益のために」と「すべての子どもを社会全体で育む」という社会的養護の基本理念の理解のもと、事例を通して児童養護施設で生活する児童の処遇や職員の児童に対する適切なアプローチについて考える力を身に付ける。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 児童養護施設へ訪問し、ケースカンファレンスへの参加や施設職員との討議を中心に授業をおこなう(第3回～第7回)。第1回～第2回は教員が準備する資料に基づき、テーマに対する考えをまとめ発表する。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 1. 事例に基づいて児童養護施設の入所児童に対する具体的な養護の方法を提案できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 児童養護施設の生活環境について考える			社会的養護Ⅱの復習をする。(1時間)		
2) 児童養護施設における学習支援について考える			社会的養護Ⅱの復習をする。(1時間)		
3) 児童養護施設の訪問と施設職員との討議(職員体制)			質問を考える。(0.5時間)		
4) 児童養護施設の訪問と施設職員との討議(自立支援の内容)			質問を考える。(0.5時間)		
5) 児童養護施設の訪問と施設職員との討議(施設を取り巻く課題)			質問を考える。(0.5時間)		
6) 児童養護施設の訪問とケースカンファレンスの参加①					
7) 児童養護施設の訪問とケースカンファレンスの参加②					
8) 児童養護施設を取り巻く課題			学びを振り返る。(1時間)		
[使用テキスト] なし					
[参考文献] 適宜プリント等を配布する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認(40%)	毎回の授業でワークシートの提出を求め、それによって評価する。				
②実技・作品発表(%)					
【定期試験】					
①筆記試験(%)					
②レポート(60%)	到達目標に関するレポートによって評価する。				
③実技試験(%)					
④面接試験(%)					
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法] 毎回の授業で学習についての振り返りをおこなう。					
[備考] 履修者を最大4名に制限する。履修希望者が多数いる場合は抽選にて履修者を決定する。協力していただく施設との信頼関係のもとで実施するため、中途での履修変更、履修取り止めは認められない。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-30-64

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 障害のある人の発達保障		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 舟越 美幸	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	4 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP (未選択)
<h1>作成中</h1>					
[授業全体の内容の概要]					
[授業修了時の達成課題 (到達					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1)					
2)					
3)					
4)					
5)					
6)					
7)					
8)					
[使用テキスト]					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( %)					
②実技・作品発表 ( %)					
【定期試験】					
①筆記試験 ( %)					
②レポート ( %)					
③実技試験 ( %)					
④面接試験 ( %)					
平常点評価		<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
[フィードバックの方法]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-34-49

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育臨床相談		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 平野 美緒	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	4 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	臨床心理士として保育・教育・医療などの場でカウンセリングや発達相談の心理的援助に従事した経験をもとに講義する。				
[授業の目的・ねらい] 臨床心理学の視点から、保育現場でみられる子どもの「問題」についての見方、考え方、関わり方を理解し、説明できるようになる。また、相談に関する基本的態度・方法を学び、基礎的技能について実践できるようになる。また、保育者自身のメンタルヘルスや多職種との連携について理解し、説明できるようになる。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 心理臨床の視点から、保育相談に必要な基本的知識について概説した上で、演習などの参加型授業を構成する					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・ 保育相談に関する基礎的態度や方法を理解し、基礎的な技能を実践できるようになる。 ・ 保育者自身の自己理解やメンタルヘルスについて理解した上で、他の専門職と連携・協働することの意義について説明できるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション ・ 保育の中で考える“こころ”について ・ 保育における「臨床相談」とは					
2) 保育臨床における「自己知覚」と「他者理解」① ・ 相談援助における「自己知覚」の意義について					
3) 保育臨床における「自己知覚」と「他者理解」② ・ 他者との関わり合いの中でとらえる“こころ”について					
4) 臨床相談の進め方			第1～4講の講義内容に関する小レポートを作成する。(30分程度)		
5) 臨床相談の基礎的知識と技能					
6) 相談場面における理解と対応 ・ ロールプレイを行い学習する。					
7) 保育者自身のメンタルヘルスと多職種連携					
8) 授業のまとめと振り返り ・ これまでの授業のまとめを行った後、課題レポートを作成する。 ・ 課題レポートをグループで共有し、他者の考え方や学びにふれ、自分の考えを整理し深める。			第5～7講の講義内容に関する小レポートを作成する。(30分程度)		
[使用テキスト] 西見奈子(編著)「子どもとかかわる人のためのカウンセリング入門」萌文書林					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( 100%)					
②実技・作品発表 ( %)					
【定期試験】					
①筆記試験 ( %)					
②レポート ( %)					
③実技試験 ( %)					
④面接試験 ( %)					
平常点評価		<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			

[フィードバックの方法]

課題について、第8回講義時に解説し、フィードバックを行う。

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-20-66

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 福祉・保育の思想		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3・4 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP (未選択)
<div style="border: 2px solid black; padding: 20px; font-size: 48px; font-weight: bold;">不 開 講</div>					
[授業全体の内容の概要]					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1)					
2)					
3)					
4)					
5)					
6)					
7)					
8)					
[使用テキスト]					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( % )					
②実技・作品発表 ( % )					
【定期試験】					
①筆記試験 ( % )					
②レポート ( % )					
③実技試験 ( % )					
④面接試験 ( % )					
平常点評価		<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法]					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-30-67

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目) 教育実習指導Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実習		授業担当者 舟越 美幸・橋本 祐治	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		保育者 (舟越)・小学校校長 (橋本) の経験から、幼児教育に大切な視点を伝えます。			
[授業の目的・ねらい] ・実習の目的や内容を理解し、実習に臨む心構えを作る。 ・保育の連続性の中から子どもの生活や遊びを理解し、保育実践に繋がる視点をもつ。 ・実習報告書を作成し、学び合うことで幼稚園教育について理解を深める。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] ① 実習の目的・概要を理解し、実習への課題や達成方法を明確にする。 ② 学んだ保育技術を参考に、指導案を作成し、実践する。 ③ 実習報告会で報告し、学び合うことで幼稚園教諭としての保育観・子ども観・障がい観を深める。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・幼稚園教育において育みたい子どもの姿を理解し、主体的な生活や学びが実現できる保育方法を考え、実践できる。 ・幼児期に必要な「幼稚園教諭との信頼関係」や「環境を通しての教育」のあり方について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 幼稚園実習ガイダンス ・幼稚園実習の流れ・実習の時期と課題・実習ファイル作成 ・オリエンテーションの受け方と内容			・これまでの実習や講義・演習等を振り返り、子どもの興味や関心・発達過程と関連付けた保育実践について調べ準備しておくこと(2時間) ・保育者としてはもちろん、社会人として必要な態度を身に付けていくことを求めます。		
2) 個と集団・子ども理解を促す保育の記録と方法 ・実習記録から子どもの姿と保育者の援助を関連付ける記録方法について学ぶ。 ・子どもを主体として尊重し、信頼関係構築を基盤とした実習指導案の作成方法について学ぶ。					
3) 指導案による実践① プレゼンテーション ・実習指導案を立案し、模擬保育を行う。			・添削指導を受けながら、実習指導案を作成し、期日までに仕上げてください。 ・個別に指導案に即した教材(絵本や見本等を含む)を用意し模擬保育を行う準備をしてください(5~6時間)。		
4) 指導案による実践② プレゼンテーション ・実習指導案を立案し、模擬保育を行う。					
5) 最終確認・トラブルシューティング・報告書の書き方 ・実習の最終確認を行うと共に、報告書の書き方について学ぶ。					
6) 帰校日 ・実習における困り感等について振り返ったり話し合ったりすることで不安や疑問点を解消し、後半の実習がより良くなる視点をもつ。 ・実習日誌を持参し書き表しを振り返ることで、子ども理解を深める。					
7) 実習報告会 プレゼンテーション ・エピソード記述方式を用いた実習報告書をグループで発表し合い、保育観・子ども観・障がい観について学び合う。			・グループのメンバーの実習報告書を事前に読み込み参加してください(1時間)。		
8) 実習報告会と振り返り グループワーク ・環境構成に関する報告書をグループで発表し合い、保育者の意図と環境構成の関連性について学び合う。					
[使用テキスト] ・『実習ガイドブック』 大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科 実習運営委員会					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認 (60%)	・保育記録内容(10%)・模擬保育振り返り内容(20%)・実習報告会振り返り内容(10%) ・環境構成の記録内容(20%)				
② 実技・作品発表 (40%)	・実習指導案の内容(20%)・模擬保育の内容(20%)				
【定期試験】					

①筆記試験 ( % )	
②レポート ( % )	
③実技試験 ( % )	
④面接試験 ( % )	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
・提出された課題について授業内で解説したり、コメントしたりしてフィードバックを行う。	
[備考] ・この科目を履修するためには、教育実習指導 I の単位を修得していなければならない。 ・この科目を履修するためには、幼稚園実習を履修見込でなければならない。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-P-60-69

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 幼稚園実習		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実習		授業担当者 舟越 美幸・橋本 祐治	
授業の回数	120 時間	時間数(単位数)	4 単位	配当	3 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		元小学校校長 (橋本) 保育者 (舟越) として勤務した経験から、幼児教育に大切な視点を伝えます。			
[授業の目的・ねらい] ・子どもの心身の発達に必要かつ十分な環境を整え、子どもの生活や遊びを援助する方法を身に付ける。 ・「見学・観察・参加・指導」における実践を通して、幼稚園教育のあり方について理解を深める。 ・実践を通し、保育者の専門性及び地域に貢献する社会人としてのあり方を学習する。					主に対応するD P 5
[授業全体の内容の概要] ① 幼稚園の社会的役割や機能について理解する。 ② 子どもと関わることを通して、子ども一人ひとりの思いや願いに気づく。 ③ 保育の環境と子どもの生活や遊びのつながりについて保育の連続性の中から理解する。 ④ 観察、記録、指導及び自己評価について実践的に理解する。 ⑤ 保育者の職務内容や職業倫理について理解する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 幼稚園教諭の職務内容や職業倫理について体験的に理解し、説明できる。 観察記録から実態を捉えた保育実践を行い、省察することで保育観・子ども観・障がい観への理解を深め、説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
① 幼稚園の社会的役割や機能について理解する。 ・幼稚園の沿革と保育理念を理解する。 ・学級編成や職員構成を理解する。 ・保育環境図や生活時程と保育を理解する。				・実習前に各年齢の発達過程を復習し、教材研究を行う必要があります。 ・実習前に各園でオリエンテーションを受け、「オリエンテーション記録」を訪問指導教員に提出してください。	
② 幼稚園教諭の職務内容や職業倫理について理解する。 ・保育者の指導、援助の方法を理解する。 ・保育者の関わりから意図や配慮を学び、自分自身の関わりに結び付ける。 ・職員連携について学び、職員の一人として場にふさわしい行動をする。					
③ 保育の連続性を意識し、観察や子どもとの関わりを通して子どもを理解する ・個々の子どもの思いや心の動きについて理解する。 ・子どもの生活や遊びについて理解する。 ・子どもの発達過程について理解する。					
④ 子どもの生活や遊びに応じた保育環境について理解する。 ・子ども一人一人やクラスの実態を理解する。 ・子どもの健康と安全への配慮について理解する。 ・子どもの姿を捉え、教材研究の視点を持つ。					
⑤ 観察 - 記録 - 指導及び自己評価について理解を深める。 ・実習日誌の記録から気づきを深め、考察する。 ・幼稚園教諭の姿を参考に生活の一部分の指導 (登園時、食事時等) を経験する。 ・園やクラスの実態に応じて部分・全日指導案を作成し、準備を行う。 ・指導案に基づく実践を行い、事後に自己評価を行う。					
[使用テキスト] ・「実習ガイドブック」大阪健康福祉短期大学・松江キャンパス 実習運営委員会 ・「幼稚園教育要領解説」 文部科学省 フレーベル社					
[参考文献]					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認 (40 %)	実習の事前指導 (課題と取り組み 10%・身だしなみ 5%・オリエンテーション記録 10%)・事後指導 (お礼状 5%・報告書 10%)				
②実技・作品発表 ( 60 %)	実習施設からの評価 (評価の基準については教育実習指導Ⅱでお知らせします)				
【定期試験】					
①筆記試験 ( %)					

②レポ ー ト ( %)	
③実 技 試 験 ( %)	
④面 接 試 験 ( %)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習報告会で総まとめとしてコメントしたり、解説したりします。</li> </ul>	
[備考]	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を履修するためには、教育実習指導Ⅰの単位を修得していなければならない。</li> <li>・この科目を履修するためには、教育実習指導Ⅱを履修見込みでなければならない。</li> </ul>	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-P-60-70

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育実習指導Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 増原 真緒	
授業の回数	10 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	現場保育経験を活かして子ども理解や指導案作成の方法、保育者の意図を持った保育について教示するとともに、実習に向けた準備等についてお伝えします。				
[授業の目的・ねらい] ・保育所の役割や機能、保育者の果たす役割を理解し、実習の目的、自己課題を明確化する。 ・指導案の作成方法を理解し、具体的に作成することで実践のイメージと繋げる。 ・保護者および地域支援や交流について総合的に学びを深める。 ・実習を通して感じた思いや疑問について、実習報告会を通して学び合う。					主に対応するDP 6
[授業全体の内容の概要] ① 実習の目的・内容を確認し、留意事項や心構えについて理解する。 ② これまでの実習を振り返り、各年齢の発達と遊びを理解し、各年齢の保育活動を計画する。 ③ ②の学びを踏まえて指導案を作成する。 ④ 発達の理解や興味関心など子どもの実態を基に設定した内容について、年齢に見合った教材を研究する。 ⑤ 実習報告会を通して、自他の振り返りにより学びを深める。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・保育実習のまとめとして、指導案の作成から実践を通し、自己課題・達成方法を見出すことができる。 ・実習報告会から他者と実習での学びを深め合い、保育士としての保育観を表明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ・オリエンテーション：シラバスの確認と本科目の説明 ・子ども理解：子どもの内面に寄り添う、共感、受け止めとは (グループワーク・ディスカッション)			※本科目では <u>計画的な課題への取り組みと提出を重視するため、取り組み姿勢および提出期限の厳守を心がけること。</u>		
2) 保護者支援と情報共有 ・事例検討を通して保護者対応の疑似体験を行う。					
3) ・「実習課題と取り組み」の作成にあたって ・実習前オリエンテーションに向けての電話および当日の受け方について ・保育の計画から設定保育の実施について：子どもの実態を土台とした指導案の作成方法と保育の実践 ・指導案作成：子どもの様子・クラスの実態から考え、行事との結びつきを考える。事前準備と使用教材の検討を行う。作成にあたっては下記のいずれかを選択する。 ①「子どもの実態」カードから子どもの姿に即した計画を立て、指導案を作成する。(1～5歳児) ②幼稚園実習で出逢った子どもの様子を思い起こして指導案を作成する。(3～5歳児)			・指導案の作成については主に家庭学習にて取り組み、指定された期日までに提出すること。最終提出までに教員の添削指導が数回にわたって行われるため、最終提出期限から逆算して計画的に取り組むことを勧める。(1～3時間程度) ※科目担当教員および臨時講師による指導案の添削指導を行う。		
4) ・「実習様式集」および「実習ファイル」の配布と説明、留意事項の確認 ・実習日誌の記録方法(確認) ・保護者支援と地域支援・交流					
5) 職員間連携と対話 ・職員同士の協力的な姿勢と連携について事例検討を通して考えを深める。					
6) ・指導案に基づいた実践①：学生同士で保育者役と子ども役に分かれ、模擬保育を行う。模擬保育中は科目担当教員および臨時講師が分かれて監督・指導を行う。			※模擬保育に向け、指定した期日までに指導案を完成させ、最終提出すること。 (到達度の確認) (1～3時間程度)		
7) ・指導案に基づいた実践②：学生同士で保育者役と子ども役に分かれ、模擬保育を行う。模擬保育中は科目担当教員および臨時講師が分かれて監督・指導を行う。 ・実践の振り返りから、実習における設定保育の在り方について考える。			※第4～5回で模擬保育を実施するため、使用したい物品(主に消耗品)を事前に購入・収集し、必要に応じて事前準備しておくこと。(0.5～3時間程度)		
8) ・模擬保育の実施からの振り返り					

・お礼状および実習報告書の作成方法（確認）保育実習Ⅱに向けた最終確認	
9) ・実習の振り返り：設定保育，保育技術，保護者および地域支援について	
10) 【実習報告会】	
[使用テキスト] 実習運営委員会『実習ガイドブック』，2024，大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科（松江キャンパス）	
[参考文献] ・小櫃智子ら，『保育所・幼稚園・認定こども園実習パーフェクトガイド』，2017，わかば社 ・小櫃智子ら，『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』，2015，わかば社	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（80%）	[第2・3回] ワークシートの提出と内容（各15点） [第4～5回] 指導案（第1回提出）の提出と内容（15点） 指導案（最終提出）の提出と内容（15点） [第8回] 模擬保育振り返りシートの提出と内容（15点） [第9回] 実習振り返りシートの提出と内容（20点）
②実技・作品発表（20%）	第4～5回の模擬保育について評価します。
【定期試験】	
①筆記試験（%）	
②レポート（%）	
③実技試験（%）	
④面接試験（%）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ・指導案については授業時間外の個別対応にて指導およびフィードバックを行います。 ・模擬保育については，第5回終了後にコメントします。	
[備考] この科目を履修するためには，「保育実習Ⅱ」を履修しなければなりません。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-P-60-75

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育実習Ⅱ	授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実習	授業担当者 増原 真緒
授業の回数 80 時間	時間数(単位数) 2 単位	配当 3 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	現場保育者経験から、保護者支援、保育の計画等、実習における学びについて指導します。	
[授業の目的・ねらい] ・保育所の社会的役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 ・観察や関わりの視点を明確にすることによって子ども理解を深める。 ・本学で学んだ内容や保育実習Ⅰaの経験を踏まえ、保育全体への理解を深めるとともに、その場に応じた実践をおこなう。 ・保護者や家庭への支援、地域社会との連携について学ぶ。 ・保育の観察から計画、実践、記録及び自己評価について具体的な実践に結び付けて理解する。 ・保育者としての自己課題を明確化する。		6
[授業全体の内容の概要] 保育実習Ⅰaの学びや子ども理解を深めると共に、主体的にその場に応じた実践を行う。保護者や家庭への支援・地域社会との連携について知る。保育課程に基づいて指導案を作成し、実践する。		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・保育所の社会的役割について理解を深めると共に、保護者や家庭への支援、地域社会との連携について説明できる。 ・保育者の行動を参考に主体的に行動し、その場に応じた行動・配慮ができる。 ・集団と個の理解をした上で設定保育に臨み、保育を省察することができる。 ・実習から自己課題を明確化し、自らの保育観について表明できる。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		[準備学修の内容]
<p>① 保育所の社会的役割や機能についての理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所の社会的な役割、機能について、実践的に理解を深める。</li> <li>・保育は養護と教育が一体となって行われるものであることを実践的に学ぶ。</li> </ul> <p>② 子ども理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス集団の様子や全体的な発達、興味関心を捉えることによって、クラスの実態について理解を深める。</li> <li>・子ども一人一人の心身の状態や発達過程、興味関心を捉えることで子ども理解を深める。</li> <li>・保育者の関わりや配慮からその意図を考え、子ども理解につなげるとともに自身の関わりに結び付ける。</li> </ul> <p>③ 保育の理解とその場に応じた実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所及びクラスの生活の流れや展開を把握することによって、その場に応じた行動をする。</li> <li>・「生活や遊びを通して総合的に行う保育」について保育者の姿や子どもとの関わりの場面から理解を深める。</li> </ul> <p>④ 保護者や家庭への支援と、地域社会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への支援及び地域の子育て家庭への支援について、保育所の取り組みや保育者の日々の姿、事例等を通して学ぶ。</li> <li>・地域社会との連携について、保育所の取り組みから様々な連携や交流について知る。</li> </ul> <p>⑤ 計画、実践、記録及び自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育におけるPDCAサイクル(計画—実践—省察—評価)を理解する。</li> <li>・クラスの実態に応じて指導案を作成の上、保育を実践し、自己評価を行う。(設定保育)</li> </ul> <p>⑥ 自己課題の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士資格を取得し、保育者となるための、自己の課題を明確にし、達成のための方法を考える。</li> </ul>		<p>※実習に向けて、および実習期間中は、実習指導Ⅱで学ぶ内容と大学にて学習した内容の振り返りと照らし合わせから更に学びを深めることを求めます。また、期間中は実習から帰宅後に実習日誌を作成します。(各日2～3時間程度)</p> <p>※指導案作成のために、子どもの興味・関心のある多種多様な遊びについて学んでおくことを求めます。また、指導案を作成し、必要な準備材料を揃え、設定保育に向けた事前準備を行います。(2～4時間程度)</p>
[使用テキスト] ・実習運営委員会、『改訂 実習ガイドブック』、2025、大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科(松江キャンパス) ・厚生労働省、『保育所保育指針解説』、2018、フレーベル館		
[参考文献]		

<ul style="list-style-type: none"> <li>・小櫃智子ら『保育所・幼稚園・認定こども園実習パーフェクトガイド』，2017，わかば社</li> <li>・小櫃智子ら『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』，2015，わかば社</li> </ul>	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（40％）	実習前指導における課題の提出および内容（課題と取り組み，身だしなみ検査）と，実習後指導における課題の提出および内容（お礼状，実習報告書，実習ファイル）によって評価します。
②実技・作品発表（60％）	実習施設より「実習態度」「子ども理解・対応」「知識・技術・判断」において全14項目から評価していただきます。
【定期試験】	
①筆記試験（％）	
②レポート（％）	
③実技試験（％）	
④面接試験（％）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
実習終了後，実習評価の返却とともに個々の課題について指導を行います。	
[備考]	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を履修するためには，「保育実習Ⅰa」の単位を修得していなければなりません。</li> <li>・この科目を履修するためには，「保育実習指導Ⅱ」を履修しなければなりません。</li> </ul>	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-P-60-76

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育実習指導Ⅲ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	10回	時間数(単位数)	1単位	配当	3セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		元児童自立支援施設児童指導員としての実務経験を活かし、日常生活支援の方法や内容を伝えます。			
[授業の目的・ねらい] 保育実習Ⅲの事前準備を行い、実習課題の達成を目指す。また、実習後の振り返りを通して、子どもの最善の利益を追求した保育について考えることができることをねらいとする。保育実習指導では、これまで学習した様々な教科目と実習との関連を意識した内容になるため、すべてのDPと共通する。					主に対応するDP 6
[授業全体の内容の概要] これまでの学習の振り返りをもとに、保育実習Ⅲの学習内容を確認する。様々なデータから児童福祉施設の抱える課題について学習し、子どもや利用者の自立に向けた社会の取り組みについてグループワークを交えながら授業を行う。第1講から第2講の間に実習施設決定のための面談を行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
1. 実習や実習報告会に取り組み、児童福祉施設等における計画に基づいた実際の関わりや様々な活動について説明できる。					
2. 実習や実習報告会に取り組み、子どもや利用者のニーズを推測することができる。					
3. 実習や実習報告会に取り組み、自分の今度の課題や目標を明確にできる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション/実習ファイルと個人票を作成する			実習希望施設と実習の目的を決める(1時間)		
2) 実習に向けた準備① (子ども理解) 子ども理解のためのアセスメント方法について理解する。			実習の目的を明確に説明する(1時間)。		
3) 実習に向けた準備② (子ども理解) 愛着に関連する障がいと発達障がいの差異を理解する。					
4) 実習に向けた準備③ (子ども理解とニーズの抽出) 【グループワーク】 事例から子どものニーズについて検討する。					
5) 実習に向けた準備④ (子ども理解とニーズの抽出) 【グループワーク】 事例から子どものニーズと必要な対応について検討する。			「実習課題と取り組み」の下書き作成する(2時間)。		
6) 実習に向けた準備⑤ 「実習課題と取り組み」を作成する。					
7) 実習の振り返り① 実習の自己評価をもとに振り返りをおこなう。実習報告書を作成する。					
8) 実習の振り返り② 実習報告書を作成する。発表の準備をする。					
9) 実習報告会① 事例をもとに模擬カンファレンスを実施する。			履修者全員の実習報告書を一読する(2時間)。 発表原稿を準備する(1時間)。		
10) 実習報告会② ・実習を通して学んだこと、気づいたこと、感じたことを発表する。 ・質疑応答を積極的におこない、今後の自己課題を明確にする。					
[使用テキスト] 保育・幼児教育学科、『実習ガイドブック』, 2025					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (60%)		各回における課題の提出状況と内容によって評価する。			
②実技・作品発表 (40%)		実習報告会での発表によって評価する。			
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					

③実技試験(%)	
④面接試験(%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 毎回の授業時に提出課題の振り返りをおこなう。	
[備考] 1. 保育実習Ⅲと同時に履修することが必要です。 2. この科目を履修するためには、保育実習指導Ⅰbの単位を修得していなければなりません。 3. classroomを使用しますので、授業中を含めアクセスできる端末を準備してください。 4. 第1回は4月におこない、4月中に個別面談等によって実習施設を決定します。 5. 「実習課題と取り組み」の作成は予定より前に実施する場合があります。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-P-60-77

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育実習Ⅲ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	80 時間	時間数(単位数)	2 単位	配当	3 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP
1. 多職種と連携して行う保育者や職員の生活支援に対する観察や生活への参加を通して、子どもや利用者の理解を深める。 2. 施設の生活や保育の流れを把握し、個々に応じた支援の実際への観察と参加を通してその方法を学ぶ。 3. 子どもや利用者、その家族の抱える課題や社会的背景について理解し、様々な連携について学ぶ。					6
[授業全体の内容の概要]					
以下の施設のいずれかで実習をおこなう。感染症等の状況によって実習施設を変更する場合がある。 松江赤十字乳児院、米子聖園ベビーホーム、米子聖園天使園、光徳子供学園、青谷こども学園、さざなみ学園、あかしや、みらい、喜多原学園、ぼっぼ、みのりの家・第2みのりの家					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
1. 実習施設の社会的役割、機能、職務内容、子どもや利用者の生活の様子について説明できる。 2. 子どもの最善の利益を追求した自身の保育観を深め、討論できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
① 各実習施設の社会的役割と機能について理解を深める。 ・各実習施設が地域や社会から求められている役割と機能について、実習を通して総合的に理解する。 ② 子どもや利用者の個人差について理解し、生活支援や生活援助の方法を習得する。 ・生活の様子や態度から様々な個人差のありようを理解する。 ・一人一人に応じた生活技能の習得や学習支援、職業訓練の計画について、実際的な関わりを通して理解する。 ③ 子どもや利用者のニーズ、思いや意図を汲み取りながら、当たり前前の日常を保障するための関わりについて保育者や職員の姿から学びを深め、自らの実践に繋げる。 ・保育者や職員の行動をよく観察し、多岐にわたる業務を把握する。 ・子どもや利用者の自立のために行う業務について知り、理解を深める。 ・実習指導者の指導及び指示の下、指導員や保育者の補助的立場として子どもや利用者への対応を行う。 ④ 個別支援計画や自立支援計画などの計画に基づく援助や支援のありようを理解する。 ・個別の計画に基づく具体的な援助や支援に参加する。また、計画の作成と実践との関連性を理解する。 ・子どもや利用者、その家族への支援や対応のありようを理解する。 ⑤ 児童福祉施設等の周辺の地域資源の利用や地域社会との連携の方法を具体的に学ぶ。 ・地域や地域社会との連携や協働の様子について体験的に理解する。 ⑥ 最善の利益への配慮について学ぶ。 ・子どもや利用者の生活に参加し、最善の利益について考察する。 ・自らの受容と共感の態度について、参加や観察を通して自覚し、実践する。				実習に向けて、および実習期間中は、実習指導Ⅲで学ぶ内容と大学にて学習した内容の振り返りと照らし合わせから学びを深めることを求めます。また、期間中は実習時間外に実習日誌を作成します。 (各日 2～3 時間程度)	
[使用テキスト]					
保育・幼児教育学科、『実習ガイドブック』, 2025.					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					

①到達度の確認 ( 60%)	実習施設による「実習態度」「知識・技術・判断」に関する項目について評価する。
②実技・作品発表 ( 40%)	実習日誌と実習報告書によって評価します。
【定期試験】	
①筆記試験 ( %)	
②レポート ( %)	
③実技試験 ( %)	
④面接試験 ( %)	
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
実習終了後、実習評価の返却とともに個々の課題について指導を行います。	
[備考]	
1. 保育実習指導Ⅲと同時に履修することが必要です。	
2. この科目を履修するためには、保育実習Ⅰbの単位を修得していなければなりません。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-P-60-78

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育ゼミナールⅢ (加藤ゼミ)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤 友彦	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	1単位	配当	3セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1. 保育ゼミナールⅡで設定したテーマに基づいて活動に取り組み、設定した課題への考察を深め、活動を省察する。 2. 主体的な学修姿勢を身に付ける。					主に対応するDP 6
[授業全体の内容の概要] 保育ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでは2年間にわたって、授業担当者のゼミに所属し、ゼミ毎の専門性に応じて様々な能力を身に付けることができるようにグループワークやフィールドワーク等をおこなう。1年生と合同で授業をおこなう場合もある。加藤ゼミにおいては次のテーマについて学び、2年間のゼミナール活動を通して、以下の専門的スキルを有した学生を育成することが目標である。 <テーマ> 保育・幼児教育と美術文化のつながりや活用を考え、実践する <育てたい学生像> ①美術文化に興味・関心をもち、美術(造形)、児童文化の知識・技術を身に着けた学生 ②地域社会の福祉、教育。文化活動に貢献できる学生					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 1. 研究テーマに関する経過を文章にまとめ、説明することができる。 2. ゼミ生同士で協働的に活動に取り組むことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
【加藤ゼミ】					
1) オリエンテーション/1年生へのゼミ紹介 卒業研究①:遊んだ児童文化の先行研究をし、構想を練る。				紹介用の資料を作成し、照会の練習をしておく。(1~2時間)	
2) 学内装飾①(グループワーク):主題を決定し表現の構想を練る。 卒業研究②:選んだ児童文化の先行研究をし、構想を練る。				卒業研究:選んだ児童文化の動画を視聴したり、参考となる絵本を図書館等で借りて読んだりしておく。(1~2時間)	
3) 学内装飾②(グループワーク):主題に応じた、表現材料や表現方法を検討し、試作する。 卒業研究③:選んだ児童文化の先行研究をし、構想を練る。					
4) 卒業研究④:選んだ児童文化の先行研究をし、構想を練る。				卒業研究:授業時間外でも製作をする。	
5) 学内装飾③(グループワーク):構想にしたがい製作する。製作の様子は画像あるいは動画で記録する。 卒業研究⑤:先行研究をまとめる。					
6) 学内装飾④(グループワーク):構想にしたがい製作する。				卒業研究:授業時間外でも製作をする。	
7) 学内装飾⑤(グループワーク):構想にしたがい製作する。製作の様子は画像あるいは動画で記録する。 卒業研究⑥(グループワーク):構想にしたがい製作する。製作の様子は画像あるいは動画で記録する。					
8) 学内装飾⑥(グループワーク):構想にしたがい製作する。製作の様子は画像あるいは動画で記録する。 卒業研究⑦(グループワーク):構想にしたがい製作する。製作の様子は画像あるいは動画で記録する。				卒業研究:授業時間外でも製作をする。	
9) 学内装飾⑦(グループワーク):構想にしたがい製作する。製作の様子は画像あるいは動画で記録する。 卒業研究⑧(グループワーク):構想にしたがい製作する。製作の様子は画像あるいは動画で記録する。					
10) 卒業研究⑨(グループワーク):構想にしたがい製作する。製作の様子は画像					

あるいは動画で記録する。	
11) 学内装飾⑧（グループワーク）：構想にしたがい製作する。製作の様子は画像あるいは動画で記録する。 卒業研究⑩（グループワーク）：構想にしたがい製作する。製作の様子は画像あるいは動画で記録する。	
12) 学内装飾⑨（グループワーク）：作品を展示する。展示の様子は画像あるいは動画で記録する。	
13) 学内装飾⑩：展示した作品を鑑賞し、活動全体を振り返る。画像を用いたポートフォリオを作成する。	
14) 卒業研究⑪（グループワーク）：ゼミ内でプレ発表をする。中間発表の資料を作成する。	発表の練習をする。（1～2時間）
15) 卒業研究⑫（グループワーク）：中間発表の資料を作成し、発表練習をする。	
[使用テキスト] なし	
[参考文献] 適宜、ゼミ指導教員が紹介する。	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（50%）	授業の取り組み姿勢や各回の提出物によってゼミ教員が評価する。
②実技・作品発表（%）	
【定期試験】	
①筆記試験（%）	
②レポート（%）	
③実技試験（%）	
④面接試験（50%）	保育実践研究中間発表会をおこない、発表姿勢や態度、内容によって評価する。
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ゼミ教員によって、都度授業内で解説したり、コメントしたりする。授業時間外でおこなう場合もある。	
[備考] 評価についての詳細な説明はゼミによっておこなう。 面接試験として「保育実践研究中間発表会」をおこなう。発表者数に応じて最大2限分を使用する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-R-60-84

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育ゼミナールⅢ (舟越ゼミ)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 舟越 美幸	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	1単位	配当	3セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1. 保育ゼミナールⅡで設定したテーマに基づいて活動に取り組み、設定した課題への考察を深め、活動を省察する。 2. 主体的な学修姿勢を身に付ける。					主に対応するDP 6
[授業全体の内容の概要] 保育ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでは2年間にわたって、授業担当者のゼミに所属し、ゼミ毎の専門性に応じて様々な能力を身に付けることができるようにグループワークやフィールドワーク等をおこなう。1年生と合同で授業をおこなう場合もある。舟越ゼミにおいては次のテーマについて学び、2年間のゼミナール活動を通して、以下の専門的スキルを有した学生を育成することが目標である。 <テーマ> インクルーシブ保育における環境づくり、保護者や地域資源との連携 <育てたい学生像> ①地域資源を活用した社会的子育て環境の意義を理解できる学生 ②参加者やスタッフと関係性を築き、個々のニーズに応じた環境がつけられる学生					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 研究テーマに関する経過を文章にまとめ、説明することができる。 2. ゼミ生同士で協働的に活動に取り組むことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
<b>【舟越ゼミ】</b>					
1) オリエンテーション/1年生へのゼミ紹介					
2) 卒業研究の内容の検討①					
3) 卒業研究の内容の検討②					
4) 年間計画の共有・内容の確認と役割分担					
5) 地域資源の活用・養護と教育の働きと社会的子育て環境					
6) 先行研究のまとめ					
7) 先行研究のまとめの発表					
8) 調査内容の検討①					
9) 調査内容の検討②					
10) 計画①グループ別準備					
11) 計画②グループ別準備					
12) 中間発表の資料作成①					
13) 計画③グループ別打合せ・リハーサル					
14) インクルージョン・キャンプ打合せ					
15) インクルージョン・キャンプ					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] 適宜、ゼミ指導教員が紹介する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
<b>【平常試験】</b>					
①到達度の確認 ( 50%)	授業の取り組み姿勢や各回の提出物によってゼミ教員が評価する。				
②実技・作品発表 ( %)					
<b>【定期試験】</b>					
①筆記試験 ( %)					
②レポート ( %)					

③実技試験(%)	
④面接試験(50%)	保育実践研究中間発表会をおこない、発表姿勢や態度、内容によって評価する。
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ゼミ教員によって、都度授業内で解説したり、コメントしたりする。授業時間外でおこなう場合もある。	
[備考] 評価についての詳細な説明はゼミによっておこなう。 面接試験として「保育実践研究中間発表会」をおこなう。発表者数に応じて最大2限分を使用する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-R-60-84

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育ゼミナールⅢ (堅田ゼミ)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1. 保育ゼミナールⅡで設定したテーマに基づいて活動に取り組み、設定した課題への考察を深め、活動を省察する。 2. 主体的な学修姿勢を身に付ける。					主に対応するDP 6
[授業全体の内容の概要] 保育ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでは2年間にわたって、授業担当者のゼミに所属し、ゼミ毎の専門性に応じて様々な能力を身に付けることができるようにグループワークやフィールドワーク等をおこなう。1年生と合同で授業をおこなう場合もある。堅田ゼミにおいては次のテーマについて学び、2年間のゼミナール活動を通して、以下の専門的スキルを有した学生を育成することが目標である。 <テーマ> (保育所以外の) 児童福祉施設における子どもの権利擁護 <育てたい学生像> ①子どもの人権に関して鋭い感性を有した学生 ②社会的養護を必要とする児童のアセスメントや支援の方法を探究できる学生					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 研究テーマに関する経過を文章にまとめ、説明することができる。 2. ゼミ生同士で協働的に活動に取り組むことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
<b>【堅田ゼミ】</b>					
1) オリエンテーション/1年生へのゼミ紹介					
2) アウトラインの構想					
3) 社会的養護の施設の概要 (グループワーク) ※両学年合同					
4) アウトラインの作成と具体的計画					
5) 社会的養護施設の子どもの権利擁護 (グループワーク) ※両学年合同					
6) 先行研究の検討を研究目的					
7) 先行研究の検討と研究目的					
8) 余暇活動の内容検討 (グループワーク) ※両学年合同					
9) 研究方法の検討					
10) 研究方法の検討/結果の集計と考察①					
11) 余暇活動の準備/練習					
12) 余暇活動の準備/練習を相互におこなう					
13) 放課後等デイサービスを利用する子どもとの関わり (学外活動)					
14) 結果の集計と考察②					
15) 社会的養育の必要な子どもとの関わり (学外活動)					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] 適宜、ゼミ指導教員が紹介する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
<b>【平常試験】</b>					
①到達度の確認 ( 50%)	授業の取り組み姿勢や各回の提出物によってゼミ教員が評価する。				
②実技・作品発表 ( %)					
<b>【定期試験】</b>					
①筆記試験 ( %)					
②レポート ( %)					

③実技試験 ( %)	
④面接試験 ( 50%)	保育実践研究中間発表会をおこない、発表姿勢や態度、内容によって評価する。
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ゼミ教員によって、都度授業内で解説したり、コメントしたりする。授業時間外でおこなう場合もある。	
[備考] 評価についての詳細な説明はゼミによっておこなう。 面接試験として「保育実践研究中間発表会」をおこなう。発表者数に応じて最大2限分を使用する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-R-60-84

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育ゼミナールⅢ (増原ゼミ)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 増原 真緒	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1. 保育ゼミナールⅡで設定したテーマに基づいて活動に取り組み、設定した課題への考察を深め、活動を省察する。 2. 主体的な学修姿勢を身に付ける。					主に対応するDP 6
[授業全体の内容の概要] 保育ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでは2年間にわたって、授業担当者のゼミに所属し、ゼミ毎の専門性に応じて様々な能力を身に付けることができるようにグループワークやフィールドワーク等をおこなう。1年生と合同で授業をおこなう場合もある。増原ゼミにおいては次のテーマについて学び、2年間のゼミナール活動を通して、以下の専門的スキルを有した学生を育成することが目標である。 <テーマ> 地域における子育て支援、絵本を介した関わり <育てたい学生像> ①子どもの言葉に関する知識・技能および言語表現に関わる表現技術を身に付けた学生 ②子育て支援に必要な技能や実践的な関わりを身に付けた学生					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 研究テーマに関する経過を文章にまとめ、説明することができる。 2. ゼミ生同士で協働的に活動に取り組むことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
<b>【増原ゼミ】</b>					
1) オリエンテーション/1年生へのゼミ紹介					
2) ゼミ活動実施に向けた計画と内容および担当者の決定 ゼミ活動準備・打合せ					
3) ゼミ活動準備					
4) ゼミ活動準備					
5) ゼミ活動【親子活動(仮)】					
6) ゼミ活動振り返り・ゼミ活動準備					
7) 1年交流会・ゼミ活動について率直な意見交換					
8) ゼミ活動準備・その他					
9) ゼミ活動準備・その他					
10) ゼミ活動準備・打合せ・その他					
11) ゼミ活動【親子活動】					
12) ゼミ活動振り返り・ゼミ活動準備					
13) ゼミ活動【親子活動】					
14) ゼミ活動準備					
15) ゼミ活動準備・前期振り返り					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] 適宜、ゼミ指導教員が紹介する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
<b>【平常試験】</b>					
①到達度の確認 ( 50%)		・活動年間計画～各親子活動の実現可能な企画力・発展性 (10%) ・各親子活動の準備から片付けといった事前事後活動 (20%) ・各親子活動当日の親子への関わりと協働的姿勢や責任感等 (20%)			
②実技・作品発表 ( %)					

【定期試験】	
①筆記試験 ( %)	
②レポート ( %)	
③実技試験 ( %)	
④面接試験 ( 50%)	保育実践研究中間発表会をおこない、発表姿勢や態度、内容によって評価する。
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
ゼミ教員によって、都度授業内で解説したり、コメントしたりする。授業時間外でおこなう場合もある。	
[備考]	
評価についての詳細な説明はゼミによっておこなう。	
面接試験として「保育実践研究中間発表会」をおこなう。発表者数に応じて最大2限分を使用する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-R-60-84

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育ゼミナールⅢ (長島ゼミ)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 長島 佳奈	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	1単位	配当	3セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1. 保育ゼミナールⅡで設定したテーマに基づいて活動に取り組み、設定した課題への考察を深め、活動を省察する。 2. 主体的な学修姿勢を身に付ける。					主に対応するDP 6
[授業全体の内容の概要] 保育ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでは2年間にわたって、授業担当者のゼミに所属し、ゼミ毎の専門性に応じて様々な能力を身に付けることができるようにグループワークやフィールドワーク等をおこなう。1年生と合同で授業をおこなう場合もある。長島ゼミにおいては次のテーマについて学び、2年間のゼミナール活動を通して、以下の専門的スキルを有した学生を育成することが目標である。 <テーマ> 楽器や視覚的教材を活用した音楽表現、保育における音楽表現活動 <育てたい学生像> ①音楽に関わる表現技術を身に付けた学生 ②地域に音楽を通して貢献できる学生					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 研究テーマに関する経過を文章にまとめ、説明することができる。 2. ゼミ生同士で協働的に活動に取り組むことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
<b>【長島ゼミ】</b>					
1) オリエンテーション/1年生へのゼミ紹介					
2) 卒業研究の準備と練習					
3) 保育施設における音楽表現活動に向けた計画と内容					
4) 卒業研究の準備と練習					
5) 楽器を中心とした表現活動①					
6) 卒業研究の準備と練習					
7) 楽器を中心とした表現活動②					
8) 卒業研究の準備と練習					
9) 保育施設で活用できる視覚的教材とうたう活動①					
10) 卒業研究の準備と練習					
11) 保育施設で活用できる視覚的教材とうたう活動②					
12) 実践発表①					
13) 楽器や視覚的教材を活用した音楽表現の練習					
14) 卒業研究中間発表の資料作成					
15) 表現活動の相互発表と卒業研究中間発表会の練習 (質疑応答も含む)					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] 適宜、ゼミ指導教員が紹介する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
<b>【平常試験】</b>					
①到達度の確認 ( 50%)	授業の取り組み姿勢や各回の提出物によってゼミ教員が評価する。				
②実技・作品発表 ( %)					
<b>【定期試験】</b>					
①筆記試験 ( %)					
②レポート ( %)					

③実技試験(%)	
④面接試験(50%)	保育実践研究中間発表会をおこない、発表姿勢や態度、内容によって評価する。
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ゼミ教員によって、都度授業内で解説したり、コメントしたりする。授業時間外でおこなう場合もある。	
[備考] 評価についての詳細な説明はゼミによっておこなう。 面接試験として「保育実践研究中間発表会」をおこなう。発表者数に応じて最大2限分を使用する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-R-60-84

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 保育ゼミナールⅣ （加藤ゼミ）		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 加藤 友彦	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	1単位	配当	4セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP
1. 保育ゼミナールⅡで設定したテーマに基づいて活動に取り組み、設定した課題への考察を深め、「保育実践・研究抄録」にまとめる。					6
2. 主体的な学修姿勢を身に付ける。					
[授業全体の内容の概要]					
保育ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでは2年間にわたって、授業担当者のゼミに所属し、ゼミ毎の専門性に応じて様々な能力を身に付けることができるようにグループワークやフィールドワーク等をおこなう。1年生と合同で授業をおこなう場合もある。加藤ゼミでは次のテーマについて学び、2年間のゼミナール活動を通して、以下の専門的スキルを有した学生を育成することが目標である。					
＜テーマ＞					
保育・幼児教育と美術文化のつながりや活用を考え、実践する					
＜育てたい学生像＞					
①美術文化に興味・関心をもち、美術（造形）、児童文化の知識・技術を身に着けた学生					
②地域社会の福祉、教育。文化活動に貢献できる学生					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
1. 研究テーマに関する成果を文章にまとめ、説明することができる。					
2. 研究を通して、専門的スキルを身に付けることができる。					
3. ゼミ生同士で協働的に活動に取り組むことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
【加藤ゼミ】					
1) 卒業研究⑬〈グループワーク〉：保育現場で児童文化の実演をする。実演の様子は、許可を得た上で画像、動画で記録する。			事前に保育現場に研究協力を依頼する。（1時間）		
2) 卒業研究⑭〈グループワーク〉：保育現場で児童文化の実演をする。実演の様子は、許可を得た上で画像、動画で記録する。					
3) 卒業研究⑮〈グループワーク〉：保育現場で実演を振り返る。					
4) 卒業研究⑯〈グループワーク〉：振り返りをもとに発表の改善を図る。					
5) 卒業研究⑰：〈グループワーク〉保育現場で児童文化の実演をする（2回目）。実演の様子は、許可を得た上で画像、動画で記録する。			事前に保育現場に研究協力を依頼する。（1時間）		
6) 卒業研究⑱：〈グループワーク〉保育現場で児童文化の実演をする（2回目）。実演の様子は、許可を得た上で画像、動画で記録する。					
7) 卒業研究⑲〈グループワーク〉：保育現場で実演を振り返る。					
8) 卒業研究⑳〈グループワーク〉：報告書を作成する。					
9) 卒業研究㉑〈グループワーク〉：報告書を作成する。					
10) 卒業研究㉒〈グループワーク〉：報告書を作成する。					
11) 卒業研究㉓〈グループワーク〉：発表資料を作成する。					
12) 卒業研究㉔〈グループワーク〉：発表資料を作成する。					
13) 卒業研究㉕〈グループワーク〉：発表資料を作成する。					
14) 卒業研究㉖〈グループワーク〉：報告会の発表練習をする。					
15) 卒業研究㉗〈グループワーク〉：報告会の発表練習をする。					
[使用テキスト]					
なし					
[参考文献]					
適宜、ゼミ指導教員が紹介する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					

【平常試験】	
①到達度の確認 ( %)	
②実技・作品発表 ( %)	
【定期試験】	
①筆記試験 ( %)	
②レポート ( 70%)	提出された「保育実践研究抄録」によって評価する
③実技試験 ( %)	
④面接試験 ( 30%)	保育実践研究発表会をおこない、発表姿勢や態度、内容によって評価する。
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
ゼミ教員によって、都度授業内で解説したり、コメントしたりする。授業時間外でおこなう場合もある。	
[備考]	
評価についての詳細な説明はゼミによっておこなう。	
面接試験として「保育実践研究発表会」をおこなう。発表者数に応じて最大2限分を使用する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-R-60-85

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育ゼミナールⅣ (舟越ゼミ)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 舟越 美幸	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	1単位	配当	4 Semester
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1. 保育ゼミナールⅡで設定したテーマに基づいて活動に取り組み、設定した課題への考察を深め、「保育実践・研究抄録」にまとめる。 2. 主体的な学修姿勢を身に付ける。					主に対応するDP 6
[授業全体の内容の概要] 保育ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでは2年間にわたって、授業担当者のゼミに所属し、ゼミ毎の専門性に応じて様々な能力を身に付けることができるようにグループワークやフィールドワーク等をおこなう。1年生と合同で授業をおこなう場合もある。舟越ゼミでは次のテーマについて学び、2年間のゼミナール活動を通して、以下の専門的スキルを有した学生を育成することが目標である。 <テーマ> インクルーシブ保育における環境づくり、保護者や地域資源との連携 <育てたい学生像> ①地域資源を活用した社会的子育て環境の意義を理解できる学生 ②参加者やスタッフと関係性を築き、個々のニーズに応じた環境がつけられる学生					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 研究テーマに関する成果を文章にまとめ、説明することができる。 2. 研究を通して、専門的スキルを身に付けることができる。 3. ゼミ生同士で協働的に活動に取り組むことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
【舟越ゼミ】					
1) 前期の振り返りと後期のガイダンス					
2) 後期の活動計画					
3) テーマの検討①					
4) テーマの検討②					
5) 廃材を使った遊びの考案①					
6) 廃材を使った遊びの考案②					
7) 廃材を使った遊び場づくり					
8) 特別な教育的ニーズをもつ子どもの地域療育支援準備①					
9) 特別な教育的ニーズをもつ子どもの地域療育支援準備②					
10) たんぼぼの集い「クリスマス会」					
11) たんぼぼの集いの振り返りと発表資料執筆					
12) 発表資料執筆					
13) 発表資料執筆					
14) 発表資料執筆と共有					
15) 発表資料執筆					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] 適宜、ゼミ指導教員が紹介する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( % )					
②実技・作品発表 ( % )					
【定期試験】					
①筆記試験 ( % )					

②レポ ー ト ( 70%)	提出された「保育実践研究抄録」によって評価する
③実 技 試 験 ( %)	
④面 接 試 験 ( 30%)	保育実践研究発表会をおこない、発表姿勢や態度、内容によって評価する。
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ゼミ教員によって、都度授業内で解説したり、コメントしたりする。授業時間外でおこなう場合もある。	
[備考] 評価についての詳細な説明はゼミによっておこなう。 面接試験として「保育実践研究発表会」をおこなう。発表者数に応じて最大2限分を使用する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-R-60-85

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育ゼミナールⅣ (堅田ゼミ)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	1単位	配当	4セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP
1. 保育ゼミナールⅡで設定したテーマに基づいて活動に取り組み、設定した課題への考察を深め、「保育実践・研究抄録」にまとめる。 2. 主体的な学修姿勢を身に付ける。					6
[授業全体の内容の概要]					
保育ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでは2年間にわたって、授業担当者のゼミに所属し、ゼミ毎の専門性に応じて様々な能力を身に付けることができるようにグループワークやフィールドワーク等をおこなう。1年生と合同で授業をおこなう場合もある。堅田ゼミでは次のテーマについて学び、2年間のゼミナール活動を通して、以下の専門的スキルを有した学生を育成することが目標である。					
<テーマ> (保育所以外の) 児童福祉施設における子どもの権利擁護					
<育てたい学生像> ①子どもの人権に関して鋭い感性を有した学生 ②社会的養護を必要とする児童のアセスメントや支援の方法を探究できる学生					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
1. 研究テーマに関する成果を文章にまとめ、説明することができる。 2. 研究を通して、専門的スキルを身に付けることができる。 3. ゼミ生同士で協働的に活動に取り組むことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
【堅田ゼミ】					
1) 結果の集計と考察②					
2) 結果の集計と考察③					
3) 結果の集計と考察④					
4) 結果の集計と考察⑤					
5) 結果の集計と考察⑥					
6) 結果の集計と考察⑦					
7) 結果の集計と考察⑧					
8) 社会的養育の必要な子どもとの関わり (保育ボランティア)					
9) 社会的養育の必要な子どもとの関わり (余暇活動の準備)					
10) 社会的養育の必要な子どもとの関わり (余暇活動)					
11) 抄録の作成①					
12) 抄録の作成②					
13) 1年生に向けた卒業研究発表①					
14) 1年生に向けた卒業研究発表②					
15) 発表練習					
[使用テキスト]					
なし					
[参考文献]					
適宜、ゼミ指導教員が紹介する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( % )					
②実技・作品発表 ( % )					
【定期試験】					

①筆記試験 ( %)	
②レポート ( 70%)	提出された「保育実践研究抄録」によって評価する
③実技試験 ( %)	
④面接試験 ( 30%)	保育実践研究発表会をおこない、発表姿勢や態度、内容によって評価する。
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ゼミ教員によって、都度授業内で解説したり、コメントしたりする。授業時間外でおこなう場合もある。	
[備考] 評価についての詳細な説明はゼミによっておこなう。 面接試験として「保育実践研究発表会」をおこなう。発表者数に応じて最大2限分を使用する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-R-60-85

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育ゼミナールⅣ (増原ゼミ)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 増原 真緒	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	1単位	配当	4セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1. 保育ゼミナールⅡで設定したテーマに基づいて活動に取り組み、設定した課題への考察を深め、「保育実践・研究抄録」にまとめる。 2. 主体的な学修姿勢を身に付ける。					主に対応するDP 6
[授業全体の内容の概要] 保育ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでは2年間にわたって、授業担当者のゼミに所属し、ゼミ毎の専門性に応じて様々な能力を身に付けることができるようにグループワークやフィールドワーク等をおこなう。1年生と合同で授業をおこなう場合もある。増原ゼミでは次のテーマについて学び、2年間のゼミナール活動を通して、以下の専門的スキルを有した学生を育成することが目標である。 <テーマ> 地域における子育て支援、絵本を介した関わり <育てたい学生像> ①子どもの言葉に関する知識・技能および言語表現に関わる表現技術を身に付けた学生 ②子育て支援に必要な技能や実践的な関わりを身に付けた学生					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 研究テーマに関する成果を文章にまとめ、説明することができる。 2. 研究を通して、専門的スキルを身に付けることができる。 3. ゼミ生同士で協働的に活動に取り組むことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
【増原ゼミ】					
1) 前期を振り返り後期に向けたゼミ活動の計画確認 ゼミ活動準備・打合せ・その他					
2) ゼミ活動準備・その他					
3) ゼミ活動準備・その他					
4) ゼミ活動【親子活動(仮)】					
5) ゼミ活動準備・その他					
6) ゼミ活動【親子活動(仮)】					
7) ゼミ活動準備					
8) ゼミ活動【親子活動(仮)】					
9) ゼミ活動準備/アンケート分析/「保育実践研究抄録」作成					
10) ゼミ活動振り返り/アンケート分析/「保育実践研究抄録」作成					
11) 「保育実践研究抄録」作成/1年生への研究紹介					
12) 「保育実践研究抄録」作成					
13) 「保育実践研究抄録」作成					
14) 「保育実践研究抄録」作成					
15) 「保育実践研究抄録」作成					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] 適宜、ゼミ指導教員が紹介する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( % )					
②実技・作品発表 ( % )					
【定期試験】					

①筆記試験 ( %)	
②レポート ( 70%)	提出された「保育実践研究抄録」によって評価する
③実技試験 ( %)	
④面接試験 ( 30%)	保育実践研究発表会をおこない、発表姿勢や態度、内容によって評価する。
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ゼミ教員によって、都度授業内で解説したり、コメントしたりする。授業時間外でおこなう場合もある。	
[備考] 評価についての詳細な説明はゼミによっておこなう。 面接試験として「保育実践研究発表会」をおこなう。発表者数に応じて最大2限分を使用する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-R-60-85

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育ゼミナールⅣ (長島ゼミ)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 長島 佳奈	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	1単位	配当	4セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1. 保育ゼミナールⅡで設定したテーマに基づいて活動に取り組み、設定した課題への考察を深め、「保育実践・研究抄録」にまとめる。 2. 主体的な学修姿勢を身に付ける。					主に対応するDP 6
[授業全体の内容の概要] 保育ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでは2年間にわたって、授業担当者のゼミに所属し、ゼミ毎の専門性に応じて様々な能力を身に付けることができるようにグループワークやフィールドワーク等をおこなう。1年生と合同で授業をおこなう場合もある。長島ゼミでは次のテーマについて学び、2年間のゼミナール活動を通して、以下の専門的スキルを有した学生を育成することが目標である。 <テーマ> 楽器や視覚的教材を活用した音楽表現、保育における音楽表現活動 <育てたい学生像> ①音楽に関わる表現技術を身に付けた学生 ②地域に音楽を通して貢献できる学生					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 研究テーマに関する成果を文章にまとめ、説明することができる。 2. 研究を通して、専門的スキルを身に付けることができる。 3. ゼミ生同士で協働的に活動に取り組むことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
<b>【長島ゼミ】</b>					
1) 保育園での実践に向けた計画、準備					
2) 保育施設での実践に向けた計画と内容および主となる担当者の決定、準備					
3) 保育施設での実践に向けた準備、練習					
4) 保育施設での実践に向けた準備、練習					
5) 保育施設での実践に向けた準備、練習					
6) 保育施設での実践に向けた準備、練習					
7) リハーサル、内容の改善					
8) 保育施設での実践の仕上げ					
9) 保育施設での実践					
10) ゼミ活動振り返り					
11) 「保育実践研究抄録」作成/1年生への研究紹介					
12) 「保育実践研究抄録」作成					
13) 「保育実践研究抄録」作成					
14) 「保育実践研究抄録」作成					
15) 「保育実践研究抄録」作成と発表練習					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] 適宜、ゼミ指導教員が紹介する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
<b>【平常試験】</b>					
①到達度の確認 ( % )					
②実技・作品発表 ( % )					
<b>【定期試験】</b>					
①筆記試験 ( % )					

②レポ ー ト ( 70%)	提出された「保育実践研究抄録」によって評価する
③実 技 試 験 ( %)	
④面 接 試 験 ( 30%)	保育実践研究発表会をおこない、発表姿勢や態度、内容によって評価する。
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ゼミ教員によって、都度授業内で解説したり、コメントしたりする。授業時間外でおこなう場合もある。	
[備考] 評価についての詳細な説明はゼミによっておこなう。 面接試験として「保育実践研究発表会」をおこなう。発表者数に応じて最大2限分を使用する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-R-60-85

## 保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育・教職実践演習		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 橋本 祐治・舟越 美幸・堅田 弘行	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	4 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	・元小学校教員・保育士・児童自立支援専門員の経験を活かし、具体的な事例を通して保育観の深化と実践力向上に資する演習にする。				
[授業の目的・ねらい] 自らの保育観を深化させ、保育実践力の基礎を養うために、これまでの学修内容や各実習を振り返り、保育・子どもの福祉の実践に必要な知識や技能について有機的に統合する中で、自らの課題や目標を明確にし、目標達成に向けて努力する。					主に対応するDP 6
[授業全体の内容の概要] 授業は複数の教員で行う。これまでの全ての授業で学んだことをもとに、自らが保育者として子どもと向き合うための実践的な知識や保育技術の統合を目指し、テキストを活用したPCによるプレゼンテーションやディスカッション等を通じて、保育実践力の基礎を養う。					
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・2年間の学びを通して、自らの使命感や責任感、教育的愛情等の資質を確認し、保育者としての自己課題を発見する。 ・保育課題や保育関係機関等の連携などの、保育に係る社会状況を把握し、自らの課題を発見する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 授業科目全体の概要を知り、見通しを持つ。 ・保育に関する疑問や自己課題をまとめる。					
2) 保育者への歩みと足跡 その1 ・「保育者を目指す私」と「思い描く保育者像」について考え、グループや全体で交流する。			・テキスト第1章「保育者への歩みと足跡」について、質問を提出する。(1時間)		
3) 保育者への歩みと足跡 その2 ・理想の保育者像や保育者になることへの不安について考え、グループや全体で交流する。			・テキスト第1章「保育者への歩みと足跡」について、質問を提出する。(30分)		
4) 保育者への歩みと足跡 その3 ・保育者に求められる資質・専門性について考え、グループや全体で交流する。			・ワークシート「履修カルテによる振り返り」を記述する。(2時間) ・自分が発表しない次回以降の学修テーマについて、テキストの該当章について、質問を提出する。(1時間)		
5) 子ども理解の方法と実際 ・保育における子ども理解の方法と実際について、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。			・授業担当者の助言を得ながら、グループの担当テーマについて学修し、発表の準備をする。(4時間)		
6) 気になる子どもの行動の理解と対応 ・気になる子どもの行動を理解し、一人一人とかがわるために、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。			〃		
7) 教育課程及び全体的な計画を考える ・広義・狭義のカリキュラムの理解とマネジメントについて、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。			〃		
8) 保育内容と保育方法の研究 ・子ども一人一人の発達に応じ、その主体性が発揮される保育内容と方法について、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。			〃		
9) 協同的な学びと育ちへ ・協同的な学びとその実際について、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。			〃		
10) 保育の振り返り ・保育実践を振り返る意義とその方法について、授業担当者の講義に基づ			・テキスト第7章「保育の振り返り」について、質問を提出する。(1時間)		

づくディスカッション等によって理解を深める。	
11) 保護者及び地域との関係づくり ・保護者や地域、関係機関との協働と、保育者同士の協働について、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。	・授業担当者の助言を得ながら、グループの担当テーマについて学修し、発表の準備をする。(4時間) ・自分が発表しない次回以降の学修テーマについて、質問を提出する。(1時間)
12) 保幼小の接続 ・保幼小の接続やその課題、接続期カリキュラム等について、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。	〃
13) 園の安全管理 ・園の安全管理の考え方や内容について、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。	〃
14) 保育者の専門性 ・保育者の専門性と成長、倫理について、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。	〃
15) 自分の保育者像を目指して ・保育者像を持つことの意味や保育者像を形成する視点について学び、自らの保育者像を明確にする。	・「目指す理想の保育者像」を提出する。 ・テキスト第12章「自分の保育者像を目指して」について、質問を提出する。(計2時間)
[使用テキスト] 小櫃智子・矢藤誠慈郎編、『改訂2版 保育教職実践演習 これまでの学びと保育者への歩み』,2023,わかば社	
[参考文献] 秋田喜代美,『保育の心もち 2.0』,2021,ひかりのくに、ほか26冊—初回授業において一覧表を配付する。	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
① 到達度の確認 (70%)	・授業内容を自らの視点でまとめ、考えを述べる。(各回「学修のまとめ」提出)
② 実技・作品発表 (20%)	・グループの発表担当テーマについて理解し、協力して資料を作成し発表する。
【定期試験】	
① 筆記試験 (%)	
② レポート (10%)	・「保育・教職履修カルテ」を整理し、各セメスターの振り返りをまとめている。
③ 実技試験 (%)	
④ 面接試験 (%)	
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ・提出された質問について、発表グループか教員が回答する。 ・提出された「学修のまとめ」への評価言と評価点を毎回返却する。 ・グループ発表については、「発表計画及び評価票」によって評価言と評価点を返却する。 ・グループ発表やディスカッションの様子について、その都度授業内で解説したり、コメントしたりする。	
[備考] 各回の「学修のまとめ」は Google CLASSROOM で提出する。シートには、事前学修実施の有無も記入する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-R-60-86